

【兵庫県立柏原高等学校】地域社会学科・知の探究科（令和6年度設置予定）

丹波からTAMBAへ・自己理解と他者理解の螺旋

地域力を活用した、「多様な価値観を共有する人材」を育成する教育課程の開発

- 柏原高校のミッション
 - ・ 地域を支える人材育成
 - ・ 全国、世界で活躍するリーダー育成
- めざす生徒像
 - ・ 主体的に物事にチャレンジする生徒
 - ・ 多様な価値観を理解し、協働する生徒
 - ・ 地域課題解決に寄与する生徒
- 地域のポテンシャルを活かし、地域を知る
 - ・ 地域探究を通して自分を知り、地域に貢献できる力を養う

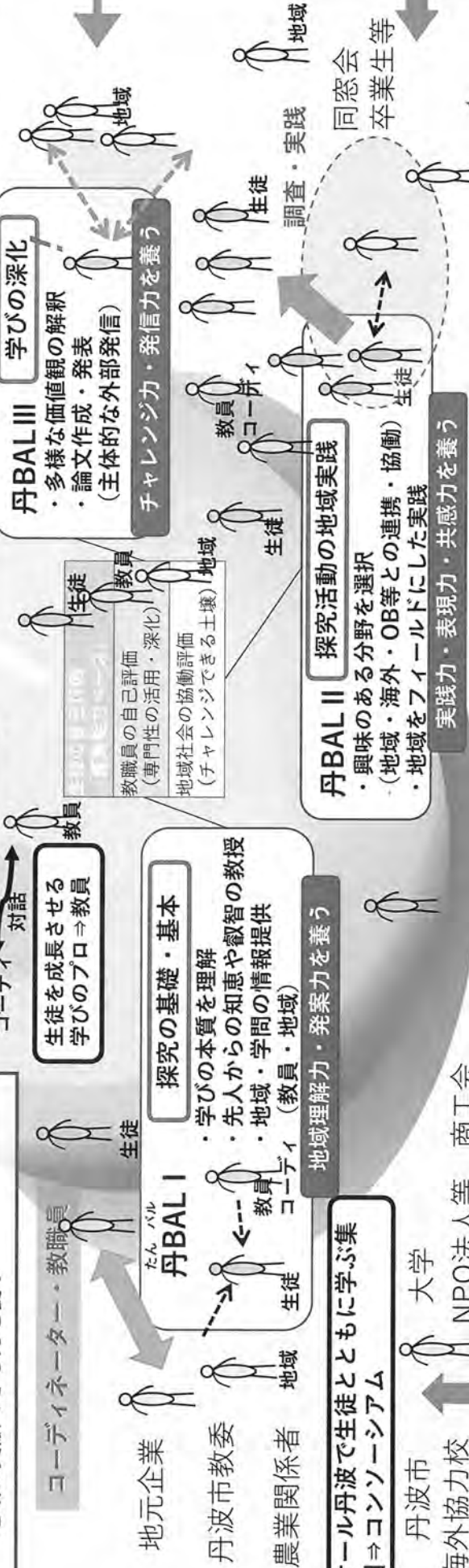
共生社会で
行動できる人材

地域と学校を繋ぐ役割
カリキュラム開発
⇒ コーディネーター

地域企業
丹波市教委
農業関係者

オール丹波で生徒とともに学ぶ集
団⇒コンソーシアム
丹波市
海外協力校
NPO法人等
商工会

多様な価値観を共有する人材の育成



3年間のミッション

- 地域資源を活かした新学科の意義を明確化
- 学校教職員とコーディネーターの協働体制構築 → 校内分掌改編
- 生徒の学びに対する意識変容 → 受動的な学びからの脱却

学科\学年	1年	2年	3年	合計
普通科地域探究科	40	40	40	120
普通科	160	160	160	480

目次

【巻頭言】	1
兵庫県立柏原高等学校長 大垣 喜代和 運営指導委員会委員長 高畑 由起夫(関西学院大学 フェロー)	
1 研究開発実施状況	3
研究開発実施計画	3
カリキュラム開発専門家	12
ロジックモデル	13
職員意識調査	14
生徒の生活実態・学習状況および意識や活動等に関する実態調査	19
2 各学年の取り組み	25
1 学年	25
2 学年	28
3 学年	30
3 第7回「地域課題から世界を考える日」	34
4 生徒作品	40
全生徒テーマ一覧	40
1 年生	44
2 年生	47
3 年生(グローバル選択者)	49
5 新聞記事	51

柏原高校では、平成20年に普通科「理数コース」に代わって設置された「知の探究コース」が、総合的な学習の時間において「探究的な学び」をスタート、全員の国公立大学進学を目指し、特色化を図ってきました。コースの生徒は、勉強、部活動、学校行事を学校を中心となって牽引しています。また、令和元年には、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受け、地域や関係機関から様々な支援を受け、コロナ禍ではありましたが生徒の主体的な学びを学校全体で進めました。

そして、今年度から新たに文部科学省「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受け、令和6年度に「知の探究コース」を普通科新学科として改編し、これまで培ってきた「地域からの学び」をベースに自分の将来へとつなげていくという学びを進めていこうとしています。

柏原高校は地域の進学校として、地域を支える人材育成とともに、全国、世界で活躍するリーダーの育成をめざして取り組んでいます。今後この研究指定を受け、さらに自分の可能性を信じ、主体的に物事にチャレンジする生徒、多様な価値観を理解し、他者と協働できる力を身につけた生徒の育成をめざしていきます。

新学科設置に向けては、課題研究に特化した科目を総合的な探究の時間を含めて7単位以上設定する必要があります。これまで行ってきた「探究Ⅰ、Ⅱ」の深化とともに、昨年度まで実施していた「グローバル」を含めた新たな科目の設定について研究を進めています。

この1年間は、これまでのグローバル型で行ってきた学びの上に、丹波市役所のご支援をいただきながら地域の課題をさらに深く探究するという取組みを行ってきました。また、8月からは2名のコーディネータにも協力いただきながら、学校と地域とを繋いでいただく役割を果たしていただいています。また、今年度は新たな取組みとして、市教委、各中学校の協力によりコースの3年生が自分の出身中学へと出向き、探究学習の成果を中学生に向けて発表する機会をいただくことができました。

新学科設置に向けては、一部の担当者だけで進めるものではなく、学校としてすべての教員がそれぞれの立場でどう取り組んでいくかが求められます。探究的な学びは、各教科の学びの基礎の上に成り立つことはいうまでもありません。今年度から始まった BYOD についても、有効に活用していく必要があります。各教科の研究とともに授業改善への取組みも必要です。また、学校の教育活動全体が生徒の主体的な学びの場であることを意識し、将来を見通した進路指導へとつなげていき、広報活動を積極的に行いながら、中学生に選んでもらえる学校づくりに務めていくところです。そのために一人ひとりがどうすべきなのか、まさしくこれも私たち教員に求められた課題解決への道、探究的な取組みではないでしょうか。その実現のために教員が、地域が、関係機関が協働して進めていく必要があります。新学科のスタートは令和6年度、今年度試行錯誤しながら進めてきたことを基盤に、次年度へ向け、柏原高校の新たな一歩がスタートします。

今回の事業推進にあたりご支援、ご協力をいただいた丹波市役所をはじめ、地域の皆様、同窓会の皆様、大学、関係機関、丹波市教育委員会、県高校教育委員会に厚くお礼を申し上げます。地域の進学校としての今後の本校の発展のためにも、様々なご指導、ご助言をいただければと思います。どうかよろしくお願い致します。

改革推進事業について、さらに大きな飛躍が期待されます

高畑由起夫(関西学院大学フェロー)

柏原高校の生徒と教職員の皆さんは、地域の方々からのご支援も得て、新しい時代に対応した高等学校への改革推進事業として「地元から、世界から、ふるさと丹波を支える人づくり」を目標に、様々な成果をあげてきました。とくに2022年度は地元社会と高校をつなぐ役割を担うコーディネーターの方々のご尽力もあり、大きなイノベーションがもたらされ、改革推進事業に具体的な形が見えてきたように思われます。

それでは、さらに飛躍をとげるにはどんな工夫が必要なのか、大学で教員を勤めていた立場から、理想的な姿を論じてみたいと思います。

まず、毎年の成果の蓄積とその継承によって、校内に“知のネットワーク”を築くことで探求学習の効率化・省力化をはかりながら、生徒の皆さんの自立性を高める。例えば、

- ・成果やリサーチ・スキルを蓄積・整理、共有化を図る(アーカイブ化)。
- ・同学年内ではディスカッション能力の向上を図り、相互評価のスキルを磨く。また、リサーチ・スキルとしてインターネット・リテラシーやデータ・サイエンスを学ぶ。とくに、インターネットで外国語の文献・資料に触れることで、英語等のリテラシーも高めましょう。
- ・学年を超えた取り組みでは、上級生から下級生へ研究成果や、リサーチ・スキルのスムーズな継承を図ることで、効率化を進め、自立性を高める。
- ・とくに、学習目標の達成度に関する規準である“ループリック”を活用し、生徒の皆さんに探求学習やネットワークについて理解や目標の共有化を図る。

さらに、次の段階は、すでに始まっていることですが、この“知のネットワーク”を高校を取り巻く様々なステークホルダーに広げることです。

- ・ステークホルダーには、保護者、探求学習でお世話になる行政や各種団体・企業、その他近隣住民の皆さん、さらに“外来者”としての観光客や外国人の方等が想定されます。
- ・その際、ステークホルダーへの説明・情報発信にループリックの評価基準を活用する(柏原高校の探求学習が何を目指しているか、どんな成果があがっているか)。また、アーカイブに蓄積された成果を発信することで、地元どんな潜在的可能性があるのか、提案する=成果の“見える化”を推進する。
- ・さらにこのネットワークを卒業生の方々や、地元の中学生の皆さんを巻き込んでいくことで、柏原高校を介した縦のつながりをさらに強化していく。

こうした過程でとくに重要なことの一つに、PDCA(Plan[計画]⇒Do[実行]⇒Check[測定・評価]⇒Action[対策・改善])サイクルでのC(=評価)が挙げられます。探求学習で達成したことを評価し、目標に及ばなかった場合は改善案を、目標を超えた場合は新たな目標を定める能力です。生徒の皆さんにとっては、自己評価・相互評価・教員からの評価・外部評価に分かれますが、これらの経験を通じてリテラシー能力を身に付け、大学やさらにその先の社会で活躍できる力を養うことが目標となります。

一方、高校にとっては、知のネットワークを通じて様々なステークホルダーの理解と共感を得ることで、柏原高校を介して地域(ローカル)と世界(グローバル)をつなげるシステムを整えることが目標と言えるでしょう。

実施計画書(普通科改革支援事業)

令和 4 年 4 月 28 日

支負担行為担当官

文部科学省初等中等教育局長 殿

(受託者) 住 所 兵庫県神戸市中央区下山手通

5-10-1

名称及び 兵庫県教育委員会
代表者名 教育長 藤原 俊平

令和 4 年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」に関する実施計画書を以下のとおり提出いたします。

記

1 事業の概要

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する学校名・設置(予定)年度

公立・私立・国立・株立の別	学校名 (ふりがな)	学科の種類	設置(予定)年度	決定
公立	兵庫県立柏原高等学校 (ひょうごけいりんりつかい ばらこうとうがっこう)	地域社会学科	令和 6 年度	○

※学科の種類は学際領域学科又は地域社会学科の別を記載すること。
 ※設置(予定)年度は令和 4 年度、令和 5 年度又は令和 6 年度を記載すること。
 ※教育委員会等における決定を経ている等、組織として設置が決定している場合には、「決定」欄に○を付すこと。

(2) 学校の詳細

課程別	新学科の 収容定員	学年制・ 単位制の別	学科の名称(決定している場合)
全日制	40×3 学年=120 人	学年制	

※課程別は、全日制・定時制・通信制の別を記載すること。

(既存の学科を転換する場合は、以下も記載)

現在の生徒数	現在の学科の種類	現在の学科の名称

(3) 当該学科における特色・魅力ある先進的な教育の取組について

現在の取組みと改題後の科目名称

	知の探究コース→地域探究科	普通科一般クラス
1 年	探究 I (1) →丹 BAL I (1)	丹 BAL I (1)
2 年	探究 II (2) →丹 BAL II (2)	丹 BAL II (1)
3 年	丹 BAL III (2)	総合 III (1)
	グローバル・(仮)自分探究・(仮)地域探究(選択各 2)	

() は単位数

【探究の基礎・基本】1 年次「丹 BAL I」

探究対象を身近な地域社会の課題にしほり、地域の抱える課題、魅力を探究し、気づきを発信・共有する。

「地域の魅力をおすそ分け」と題して、地域で活躍している 15 名の方や教員の得意とする学問をテーマに、今日的な課題や地域社会のニーズ等を知り、自らの興味あるテーマを探究授業。

【探究活動の地域実践】2 年次「丹 BAL II」

テーマの変更を認め、「地域課題の探究(1 年の継続)」に加え、研究の切り口として「自分探究(自分が最も関心がある地域社会を支える人材:教育、看護医療、公務員、起業している方等が、地域社会にどのように働きかけ、社会が形成されているかを学び深める活動)」につながるテーマを研究する。自分が研究する目的を明確にし、地域をフィールドに 1 年時の探究活動を深める。中学校やオープン・ハイスクールで地域の後輩と学びを共有し、協働する人材育成に携わる。2 学期以降は、台湾修学旅行(沖縄)に向けて、事前学習を兼ねて台湾研究を行う。

治南高級中学、台南第一高級中学など海外で暮らす同年代の若者とオンラインで交流する。自己紹介、学校紹介地域の紹介を互に行うことで、2 者間における差異の気づき、差異を生む背景の考察など比較研究に必要なモノの見方・考え方を獲得する。リサーチエスタ、マイプロジェクトアワード、グローバルサミット等、研究報告を公表し、今後の課題の明確化と学びの深化を目指す。

【学びの深化】3 年次 学校設定科目「グローバル」

2 年の探究をさらに継続・発展させた生徒が、選択できる科目として設置する。

英語によるプレゼンテーション、ディスカッションに対応できる技能を磨き、海外の高校生(台湾、韓国、カンボジア等)とオンラインで情報発信、意見交換をして学びを深める。海外及び全国のグローバル型の高校とオンラインで結び、グローバルサミットを開催。ポストコロナに何ができるかの提言をまとめる。

「地域課題から世界を考える日」(全校発表会)

総合的な探究の時間、「丹 BAL I」「丹 BAL II」「探究 II」「グローバル」でまとめた探究活動の成果を発表する。オンラインで発信する。

今後、地域人材育成のための探究活動、「地域探究(仮)」地域づくり、魅力発信、ふるさとと教育をテーマに新たな科目を設定する。知の探究コースにおける探究の名称を普通科と同様の「丹 BAL」と名称変更し、学校全体の学びの共通項として位置づけ、地域探究学科では、学びの質の向上とさらなる教科横断的な学びの体系化を図る。

2 卒業の目的等

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校を取り巻く状況の分析、学際領域学科又は地域社会学科を設置する必要性

本校の所在する丹波地域は、現在少子高齢化、過疎化、医師不足、基幹産業である農業の衰退、森林の放置、それを要因とした土砂災害の発生、農作物への鳥獣被害など様々な目的課題を抱えている。

一方、丹波地域には、豊かな自然や景観、歴史、あるいは丹波大納言小豆や黒大豆など、日本を代表する農作物や、世界的にも珍しい恐竜の卵化石が発掘された大きな話題となった地層（丹波篠山層群）など、世界に誇るべき地域財産を有している。

本校は、地域の進学校として、125年の歴史があり、卒業生も4万人を超え、多くの人材を世界に発出してきた。最大2000人を超える生徒が学び、丹波地域はもともと、世界各国で活躍している。しかしながら、少子高齢化の影響は大きく、最大1学年12クラス規模から5クラス規模へと生徒が半分以下に激減し、丹波地域の人口も減少傾向にある。

一方で、丹波市では、世界ブランドの農作物等の地域資源に魅力を感じ、丹波地域への移住者数は、令和2年度には225人と前年度から100人も移住者が増加している。新たなビジネスを展開している方や自分らしい生き方を求めている方などの多様な価値観が共存している。

平成20年に本校は学校の特色であった「普通科理数コース」を文系対応も可能な「知の探究コース」として改編、探究活動を教育課程の中に盛り込み学校の特長を図ってきた。本校が探究活動で培ってきた、地域との協働した学びは、生徒の主体的な学びの場となり、学校が活性化する源として、本校の中心的な活動として現在まで牽引してきた。

具体例をあげると、新型コロナウイルス感染症が拡大するなかで、実施した教育活動は以下となる。感染拡大を防止しながらの取組ではあったが、地域の方から多くの喜びの声が聞かれた。

【具体的な取組】令和2年度実績

- ・地域資源である丹波竜や丹波布に関わりの深い偉人等の魅力発信のための方策提案
- ・丹波三宝を題材にフィードバック等の実践的な学びを展開
- ・車いすユーザー用柏原市街めぐり観光マップの日本語版・英語版の作成
- ・西山酒造場（丹波市市島）から商品開発を学ぶアントレプレナーシップ
- ・移住相談をオンラインで実施

この度のパンデミック以外にも、急速なグローバル化やICTをはじめとする技術の進展や少子高齢化の影響等、ますます変化が激しく予測困難な時代を迎えている中で、社会の変化に柔軟に対応し、自らの力で新しい社会を切り拓く力を育成する高等学校であるために、地域との協働による高等学校教育改革推進事業により実施した研究開発を継続し、発展させる必要がある。これからも、丹波市が、豊かに生きることができる地域であり続けるために、高校生が中心となり、地球規模の視点に立った地域課題・魅力に着目し、地域社会の持続的な発展や価値の創出に資する資質能力を育成していく。

そのために、現コースの培ってきた学びの進化系として、本質的な協働と個人の行動を重視した新学科「知の探究科」（仮称）として、「多様な価値観を共有する人材育成」を目標に、丹波地域をフィールドとした、地球規模で活躍する人材を育成することが本校の使命であると考えられる。

(2) 学際領域学科又は地域社会学科における取組の目的・目標（学際領域学科又は地域社会学科における教育を通じて育成を目指す資質・能力を含む）

① 相原高校のめざす生徒像

- ・主体的に物事にチャレンジする生徒
 - ・多様な価値観を理解し、協働する生徒
 - ・地域の課題解決に寄与する生徒
- ② 取組の目的・目標
- ・地域課題を理解し、地域活性化や課題解決に向け積極的に関わることのできる資質能力を養う。
 - ・地域との比較や、世界的な課題との関連を探る活動を通じて多様な価値観を理解できる資質・能力を養う。
 - ・生活体験や地域での学び、交流から、他者と自分の差異に気づき、差異を生かす方法を考えることができる資質・能力を養う。

③ 育成を目指す資質・能力

コア教科・科目「丹BAL」で課題解決型学習を推進し以下の力（例）を育成する。

	丹 BAL I	丹 BAL II	丹 BAL III
地域理解力	◎		
発案力	◎		
実践力		◎	
関係構築力	○	◎	
表現力	○	◎	◎
チャレンジ精神		○	◎
リーダー性		○	◎

※新学科準備として、コーディネーターを中心に教員や地域の方と育成したい能力を検討する。

想定する内容
 地域理解力：主体性・好奇心・創造力など
 発案力：分析力・考察力・企画力など
 関係構築力：発信力・巻き込み力など

④ カリキュラムマネジメント

コア科目を中心とした各教科の学びの設計において以下の内容を実践する。
 〈特に育むべき資質・能力〉
 ・答えが一つとは限らない問いに対し、自ら解を求める思考力、判断力、表現力等の能力

・主体性を持って多様な人と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）
 〈年次進行〉

- 1年次 課題と設定と分析 2年次 解決策のための立案と実行
- 3年次 キャリア形成へのさらなる行動

〈課題解決型学習の設計〉

教育目標からの目指す資質・能力の設定→評価の目的と方法の設定→授業計画の作成→授業案の作成と授業の実施方法の検討→授業関係者の役割の明確化
 学校の教育活動全体を見据え、これらの内容を教員間で互いに確認できる、対話を重視したシステムを構築する。

3 実施体制

(1) 管理機関における実施体制や事業の管理方法

- ①校内組織の改編
 - ・コーディネーターを校務分掌に位置づけ、組織としての役割を明確化
 - ・校内の教育活動全体に関するコーディネーターの関与を充実
 - ・職員会議等において、事業内容に関する情報を共有化
 - ②普通科新学科設置検討委員会の設置
 - ・普通科新学科設置に向けた準備委員会を校内に立ち上げ、コーディネーターを含む委員により、組織的に改編を推進
 - ③運営指導委員会の開催
 - ・運営指導委員会を年間3回以上開催し、専門的な知見を有する大学関係者や企業関係者、自治体関係者、地域NPO等の委員から助言を受けながら、校内の教育活動に対して進行管理、評価、指導を実施
 - ・委員会の構成員である県教育委員会事務局から、県全体の施策等を踏まえた指導助言の実施
 - ④コンソーシアム運営委員会の開催
 - ・コンソーシアム運営会を定期的に開催し、カリキュラムについて、各専門分野の立場から必要な助言を与え、協働体制を構築
 - ・探究活動に関する情報やデータの提供や、フィールドワークやインターンシップ等の体験的な学びやICTを活用した海外との交流の機会を提供
 - ・カリキュラムの実施にあたって、必要に応じて、人的、物的な支援を展開
 - ・実行されたカリキュラムの成果に関する定期的な報告を受け、必要な助言を付与
 - ・普通科専門学科としての特色ある教育課程の推進のため、各種分野において優れた知識・技能を有する社会人等を 学校設定教科・科目、総合的な探究の時間等の講師として活用する特別非常勤講師を配置
 - ・本県知事部局の国際交流課・国際経済課等との協力のもと、指定校と国内の大学や企業、海外の教育機関との連携強化や、本県SSH指定校等で組織する「兵庫『味のテタ』事業推進委員会」との連携を推進する事業の支援・拡大及び成果の普及を展開
- ※①～④を関連付けることにより期待される相乗効果
- ・探究活動は、専門的かつ広範的な内容を伴うことから、従来の高等学校の教育環境のみでは効果的な実施が困難な状況であるが、多方面の専門家や組織が、事業実施校の教育目標や実施内容に関する情報を共有することにより、人的支援及び物的支援を受けやすくなり、内容の深い学びを機能的に実現する可能性が高まる。
 - ・生徒が個々に発案して進める探究活動を、校内外の様々な場面で公開していくことにより、生徒の課題意識が社会全体の課題とリンクしやすくなり、より大きな支援を得た教育活動となり得る可能性が高まる。

(2) 管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

【事業評価の体制】

- ①運営指導委員会での検証
 - ・高校教育課長をはじめ、担当指導主事による継続的な評価及び指導
 - ・外部委員等による、客観的な視点からの継続的な評価
 - ・大学教授等の有識者による、学術的な視点からの継続的な評価
- ②コンソーシアムでの検証
 - ・高校教育課長をはじめ、担当指導主事による継続的な関与及び助言
 - ・コンソーシアム構成員による、多角的な視点からの評価
 - ・校内の教職員及び生徒による、計画的な自己評価
- ③「普通科新学科設置準備委員会（仮称）」での検証
 - ・普通科新学科設置を目標とする委員と委員会での相互評価
 - ・指導主事による各校の成果に関する相対的な評価
- ④兵庫県教育基本計画（兵庫県教育基本計画）に基づく年度末評価の実施
 - ・「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」に基づく年度末評価の実施

【事業評価の考え方・観点】

- ①スキル・ポリシーの適切な設定
 - ・生徒に身につけさせる資質・能力の明確化
 - ・資質・能力を育成するために必要な教育課程に関する方針の明確化
- ②入学時に期待される生徒像の明確化
 - ・育成するべき資質・能力に関する評価方法の適切な設定
 - ・生徒の到達度（ポートフォリオ、ルーブリック等）
 - ・生徒の興味・関心・意欲等に関する教職員の理解度
 - ・生徒や教職員、協働者に関するコーディネーターの理解度
- ③3年間を通じた体系的なカリキュラムの設定
 - ・教育目標に則した教科横断的で体系的なカリキュラムの設定
 - ・学校設定教科を軸とした、探究活動中心のカリキュラムの設定
 - ④ICT等を活用した授業設定
 - ・BYODをはじめとする情報端末機器を有効に活用した授業の展開
 - ・急激な社会変化等に影響を受けにくい学習環境の構築
 - ⑤コーディネーターの有効な活用方法の検証
 - ・コーディネーターの得意分野を生かした学校組織での活用
 - ・コーディネーターによる研究機関や地域社会との接続点の増加
 - ・コーディネーターを軸とする学校内外の協働体制の構築
 - ・コーディネーターの関与によるワークライフバランスの組織的な担保

【具体的な評価指標(例)】

高校の魅力・特色を高校選択の理由にした生徒の割合

【第3期ひょうご教育創造プラン指標】

区分	R元年度		R2年度		R3年度		R4年度		最終目標	
	実績		見込		見込		目標		【年度】	
目標	82%		83%		84%		85%		86%	
実績(見込)	81.0%		82.5%		79.3%		(85%)		【R5年度】	

(3) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校における専業の管理方法

- ①校内組織の改編
 - ・コーディネーターを校務分掌に位置づけ、組織としての役割を明確化
 - ・校内の教育活動全体に関するコーディネーターの関与を充実
 - ・職員会議等において、事業内容に関する情報を共有化
 - ②普通科新学科設置検討委員会の設置
 - ・普通科新学科設置に向けた準備委員会を校内に立ち上げ、コーディネーターを含む委員により、組織的に改編を推進
 - ③運営指導委員会の開催
 - ・運営指導委員会を年間3回以上開催し、専門的な知見を有する大学関係者や企業関係者や自治体関係者、地域 NPO 等の委員から助言を受けながら、校内の教育活動に対して進行管理、評価、指導を実施
 - ・委員会の構成員である県教育委員会事務局から、県全体の施策等を踏まえた指導助言の実施
 - ④コンソーシアム運営委員会の開催
 - ・コンソーシアム連絡会を定期的に開催し、カリキュラムについて、各専門分野の立場から必要な助言を与え、協働体制を構築
 - ・探究活動に関する情報やデータの提供や、フィールドワークやインタビューシット等の体系的な学びや ICT を活用した海外との交流の機会を提供
 - ・カリキュラムの実施にあたって、必要に応じて、人的、物的な支援を展開
 - ・実行されたカリキュラムの成果に関する定期的な報告を受け、必要な助言を付与
 - ・普通科専門学科としての特色ある教育課程の推進のため、各種分野において優れた知識・技能を有する社会人等を 学校設定教科・科目、総合的な探究の時間等の講師として活用する特別非常勤講師を配置
 - ・本県知事部局の国際交流課・国際経済課等との協力のもと、指定校と国内の大学や企業、海外の教育機関との連携強化や、本県 SSH 指定校等で組織する「兵庫『咲いテク』事業推進委員会」との連携を推進する事業の支援・拡大及び成果の普及を展開
- ※①～④を関連付けることにより期待される相乗効果
- ・探究活動は、専門的かつ広範囲的な内容を伴うことから、従来の高等学校の教育環境のみでは効果的な実施が困難な状況であるが、多方面の専門家や組織が、事業実施校の教育目標や実施内容に関する情報を共有することにより、人的支援及び物的支援を受けやすくなり、内容の深い学びを機能的に実現する可能性が高まる。
 - ・生徒が個々に発案して進める探究活動を、校内の様々な場面で公開していくことにより、生徒の課題意識が社会全体の課題とリンクしやすくなり、より大きな支援等を得た教育活動となり得る可能性が高まる。

(4) 管理機関及び申請校における研究開発の実績（申請校が新設校の場合、管理機関における実績のみを記載）

〔管理機関における研究開発の実績〕			
学校名	指定年度	指定機関	研究主題
神戸	平成 16～令和 4 年度		スーパーサイエンスハイスクール
尾崎小田	平成 17～令和 元年度		従来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校等を指定し、理数系教育に関する教育課程等に関する研究開発（実践的な研究を含む。）を行う。
宝塚北	令和 元～5 年度		
三田津雲館	平成 21～令和 3 年度		
明石北	平成 22～令和 元年度		
加古川東	平成 18～令和 3 年度		
小野	令和 元～5 年度		
龍野	平成 25～令和 4 年度		
豊岡	平成 18～令和 3 年度	文部科学省	
姫路西	平成 28～平成 30 年度		スーパーグローバルハイスクール
兵庫	平成 27～令和 元年度		グローバルな社会課題を発見、解決できる人材やグローバルなビジネスで活躍できる人材育成するため、質の高いカリキュラムの開発・実践を行う。
伊丹	平成 27～令和 元年度		
国階	平成 27～令和 元年度		
生野	令和 元～3 年度		地域との協働による高等学校教育改進黨進事業
相模	令和 元～3 年度		市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを輩出する取組を行う。
村岡	令和 2～4 年度		

〔申請校（兵庫県立柏原高等学校）における研究開発の実績〕

平成 26 年 4 月～平成 31 年 3 月
 スーパーグローバルハイスクールアソシエイト校に指定
 平成 30 年 4 月 ひょうごスーパースーパーハイスクール指定
 平成 31 年 4 月～令和 4 年 3 月
 文部科学省「地域との協働による教育改革進黨進事業（グローバル型）指定

(5) 運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
兵庫県立人と自然の博物館館長	中瀬 勲	学識経験者
関西学院大学 フェロー	高畑 由起夫	学校教育に専門的知識を有する
福知山公立大学 教授	杉岡 秀紀	〃
丹波市観光協会 会長	柳川 拓三	関係機関の責任者
丹波市企画総務部総合政策課政策係長	荻野 雅文	関係行政機関の職員
兵庫県教育委員会高校教育課課長	新谷 浩一	管理機関

(6) 運営指導委員会が取り組む内容

年間3回程度運営委員会を開催し、各委員の専門性を生かして、令和4・5年度は、新学科設置に向けたカリキュラム開発、コーディネートを中心とした校内の体制整備、コンソーシアムの構築や連携、中学校等への周知・広報等の進捗状況、中学校等への広報活動等について助言を行う。令和6年度は、学科の設置年度と等するため、学生の状況等を把握し、カリキュラムの実施や関係機関との連携の深化等について、具体的な助言を行う。また、学校内外の継続的な連携・協働構築に向けての具体的な提案を行う。

4 学際領域学科又は地域社会学科における取組

(1) 学際領域学科又は地域社会学科におけるカリキュラムや教育方法等の特色・魅力ある先進的な教育の内容(学校設定教科・科目の詳細は別添1「学校設定教科・科目の設定に関する説明資料」に記載。)

<p>1年「丹BAL I」</p> <p>国内外の地域の課題をテーマに設定する。まずは、丹波地域の抱える課題、魅力等について探究を進め、地域の魅力について理解を促す。</p> <p>「地域の魅力をおおそそ分け」と題して、コンソーシアムや卒業生等の協力を得て、地域や丹波を応援し活躍している方を講師として招喚する。また、学問分野として教員の教科専門性を活かす授業も展開し、生徒への様々な情報提供を行う。</p>
<p>2年「丹BAL II」</p> <p>1学年で学んだ内容で、自らの興味ある内容を班選択する。テーマの変更を認め、地域課題の探究(1年の継続)や「自分探究(地域人材の育成、教育、看護医療、公務員、起業等をテーマに探究)」の大テーマから小テーマに展開し、その調査研究のためにコンソーシアムや卒業生等とつながり、実社会で活躍している方と授業展開を行う。</p> <p>(想定される具体的な学びの内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾の学生と本校生徒の地域課題を調査研究 移住者とともにアントレプレナーシップについて調査研究 外国人移住者が住みやすい地域にするための調査研究 日本のアニメの海外における受容に関する比較調査 丹波市の財政調査 プータンと丹波市の幸福度の比較調査 等
<p>3年「丹BAL III」</p> <p>1年次2年次の課題解決型学習により、自らの将来設計(キャリア)に位置つけた学びの展開を行う。主体的な学びの推進のために、生徒が希望する分野の班設定を行い、学校設定科目等で補完的な学びを展開する。</p> <p>(想定される具体的な学びの内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外の高校生(台湾、韓国、カンボジア等)と地域課題をテーマに協働研究 移住外国人との共生するためのイベント企画 グローバルサミットの企画運営 丹波の3高校が地域を活性化させるための人の群を数値化する研究 丹波の農作物をドバイで売れるのか 総理大臣になるための方法 丹波市から宇宙ロケットを飛ばす実験 等 <p>3年選択科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分探究(仮)」 キャリアデザインのための探究活動 「地域探究(仮)」 地域活性化策の提案(オール丹波構想) 地域づくり 「グローバル」 海外訪問やオンラインによる相互の課題の解決策を実践 <p>学びの集大成発表の場として「地域課題から世界を考える日」 総合的な探究の時間、「丹BAL」 「探究II」 「グローバル」 等でまとめた探究活動の成果を発表する。オンライン等で発信する。</p>

(2) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法

これまでの探究活動からの協力体制を発展させる。新学科では生徒の興味ある課題に対して、持続可能な取組とするためにコンソーシアムやOBのつながりを活かした協働体制の構築を目指す。

①生徒の教育活動の支援体制

- 生徒が探究活動を進めるにあたり、地域の状況や課題、情報共有、講演会、フィールドワークの対応などで協力、支援する。また、課題解決型学習時に解決するための専門家や組織等につなげ、協働した取組により解決できる体制を目指す。
- (自治体・商工会・観光協会等)
 - ・丹波市の姉妹都市(米国ワシントン州ケント市・オーバパン市)との高校生地域活性化会議及び交換留学の実施
 - ・各機関からの研究テーマに関する情報、データ等の提供(海外の大学、高校、NPOとのコンソーシアム)
 - ・国際交流の推進、観光振興に関する研究
 - ・ICTを活用した共同研究 など

②地域探究の教育活動が持続可能な体制

地域活性化の視点を共通項とし、関係者の利益を尊重した持続可能な体制を作る。

- ・自治体の地域活性化政策や地域おこし協力隊等の継続的な人的支援の検討
- ・企業の社会貢献事業(CSR)等の人的物的支援の検討
- ・実践活動を生徒自らで実現する方法の提案(クラウドファンディング等)など

会議を定期的に実施し、新学科設立までに方向性を明確化する。

(4) 配置するコーディネーターの属性や役割

所属	氏名
NPO法人Imagine丹波	鴻谷 佳彦
丹波市市民活動支援センター	一宮 祐輔

当該者の主な実績

NPO法人 Imagine 丹波 鴻谷 佳彦

- ・文部科学省での運営指導委員
- ・探究活動における特別非常勤講師(県内4校実績)

丹波市市民活動支援センター 一宮 祐輔

- ・探究活動における特別非常勤講師
- ・丹波三高校によるモンブランプロジェクトの支援活動コーディネーター

コーディネーターが取り組む内容(勤務形態を含む)

1年目

学校職員やコンソーシアム等の地域関係者との関係づくりを優先に令和6年度の新学科設置に向けた準備ならびにコーディネーターの役割を明確にする。

- ①地域や学校の抱える課題の言語化、可視化、共有化
- ②コアとなるチームの編成
- ③推進体制づくりの原案づくり
- ④丹波ALを中心とした教科科日の参画授業を試験的に実施し、教科間連携を強化する。

2年目

1年目の課題を解決する。学校内での意思決定を促し、先生方の主体性を高める仕組みを実践する。特に丹波ALⅡから丹波ALⅢの授業体制・設計を中心としたカリキュラムマネジメントを教員とともに作り上げる。

- ①校務分掌の再編成
- ②コアとなるチームの編成から学校全体に対話を拡大(教員研修等)
- ③関係機関との細かな調整
- ④学校外での学びの醸成を推進

3年目

新学科の設置
コーディネーターの役割が明確化
仕組みと文化づくり

今年度は非常勤とするが、今後は学校に常駐して、教員とともに関係機関との調整、授業において教員、生徒の支援を行う。また、学校内外の協働体制を設計する中心となる。

(3) コンソーシアムの構成員

所属	氏名	主な実績
丹波市	林 時彦	丹波市長 講演会(ようこそ先輩)
丹波市教育委員会	片山 則昭	丹波市教育長
丹波県民局	今井 良広	丹波県民局長
丹波市商工会議所	大地	会頭
丹波市観光協会	柳川 祐三	会長
丹波医療センター	秋田 穂東	院長
丹波市国際交流協会	山口 直樹	会長
福知山公立大学	杉岡 秀紀	教授
地元NPO団体	未定	未定
兵庫県教育委員会	新谷 浩一	高校教育課長

5 実施計画

(1) 3ヶ年の実施計画の概要

<p>1年目</p> <p>現行の内容について、継続実施。</p> <p>①1年生については、新たなテキストや講演会等により探究の手法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による丹波の魅力再発見 自治体の施策を学ぶ（地域を知る） ・地域の魅力や課題の中から、自分の興味あるテーマを設定し、フィールドワーク等の活動から探究を深めていく。 <p>②2年次の探究活動を、前半は1年次からの継続で地域活性化策のまどめ（地域を深め創る）、後半を台湾（沖縄）研究として、テーマを防災、観光、平和等に設定し探究を進める。自治体の対応の違いを比較する。また、地域課題や自己の将来に向けて研究を進める。</p> <p>③学校設定科目の研究「(仮)自分探究」「(仮)地域探究」「グローバル」を設定。</p> <p>新たな科目設定であるので、新学科設置検討委員会(仮)により現在の教科の授業との関連をどのような形で行うか、また、総合的な探究の時間や、LHR等で行っている内容とも関連させ、実施する時間を適切に設定できるように研究する。</p> <p>また、カリキュラム開発について、コンソーシアムである大学、県教育委員会等との連携し、指導助言を受ける。学校行事（オープン・ハイスクール、修学旅行、進路探究 WEEK、インターンシップ、地域人材養成セミナーなど）との関連もはかり事前事後の学習につながるよう探究学習をプログラムする。</p>	<p>2年目</p> <p>①2年次で全クラスが2単位の探究活動を実施。これまで週1時間の細切れであった授業を2時間続きにしたことで、フィールドワーク、講演会などを適切に計画、実施する。また、LHRの時間と続きにして、課題研究、レポート作成、フィールドワーク、講演会、発表会等が実施しやすい形にする。</p> <p>②学校設定科目「(仮)自分探究」「(仮)地域探究(地理探究)」「グローバル」の試行</p> <p>③県教育委員会へ学校設定科目の届出</p>
<p>3年目</p> <p>新学科設置初年度</p> <p>①1年次より「地域探究科」スタート</p> <p>②関係機関の連携協力による新たなカリキュラム（初年度：1年生）の実施</p> <p>③新たなカリキュラム実施（2年生・3年生）に向けての校内体制の準備</p>	

(5) 学際領域学科又は地域社会学科の設置及び設置に向けた検討に関する生徒、保護者、地域等への説明の実施

<p>地域社会学科の設置は令和6年度であるため、以下の広報活動を令和5年度に行なう。</p> <p>①学科の教育内容をまとめた広報用リーフレットとポスターの作成 中学生や保護者、地域の方に対して、教育活動や行事等を整理し紹介する。また、同時に教育活動に関わっていただけたらという理解を促す。 ポスターの掲示には、学区内の駅やスーパー、公民館、商業施設等の多くの方に周知できる場所を選定して掲示する</p> <p>②オープン・ハイスクール等（中学生、保護者、地域への広報） 年間3回実施</p> <p>第1回 7月 中学校訪問 生徒が出身中学校へ出向き、現在行っている探究活動の実践を発表する。あわせて、学校紹介を行う。</p> <p>第2回 8月 オープン・ハイスクール：知の探究コース説明会 生徒が主体となって進行する。学校紹介、探究活動等、高校の学びについてパネルディスカッション、国際交流について、先輩と語るなどを企画し、学校を紹介する。生徒が説明する。</p> <p>第3回 11月 秋のオープン・ハイスクール、進学相談会 生徒が主体となって進行する。学校紹介、探究活動の紹介、高校生と語る（進学相談）を行う。</p> <p>③スマートフォンのWEBページ作成 今後の教育活動を紹介できるようにサイトとして業者委託をする。</p> <p>④学校関係者への説明</p> <p>3月 入学者説明会（新入生、保護者への説明） 4月 PTA総会での説明（保護者への説明） 6月 中高連絡会（中学校教員への高校説明） 8月 学校評議員会 9月 学校説明会（中学生、保護者、中学教員への高校説明）</p> <p>⑤発表会での説明</p> <p>12月 グローバルサミット（関係校、地域、保護者にも公開） 1月 地域課題から世界を考える日（校内発表会を保護者、地域にも公開）</p>	
--	--

(2) 令和4年度の計画の内容

事業の内容	
月	事業の内容
	関係機関等との連携・協力体制の構築 丹波新聞社
5月	カリキュラムや教育方法等の開発 探究学習ガイダンス 授業公開週間（探究的な学びの研究） 職員研修会（ICT活用について）
6月	情報教育研修課、教育企画課等 海外交流アドバイザー 学校設定科目「グローバル」によるオンライン交流 新学校設定科目「(仮)地域探究」[(仮)地域学]研究
7月	福知山公立大学、関西学院大学等 同窓会の支援、協力 丹波市、丹波篠山市教育委員会、中学校 丹波医療センター、市役所 地元企業、観光協会、商工会議所等
8月	丹波市・ハイスクールのブレゼン オンラインシニア・ファミリードワーク 研修合宿 海外交流（台湾・韓国・アメリカ）
9月	丹波市・丹波篠山市教育委員会、 小中学校、子育て支援センター 地元企業、観光協会、商工会議所等 海外交流関係校、国際交流協会
10月	文化発表会 探究活動成果発表（教科別、部活動） 進路探究WEB 卒業生による講演、模擬授業
11月	大学、短大、専門学校、企業等 （卒業生による講演、講演、模擬授業等） 海外交流関係校
12月	関係中学校、教育委員会等 海外交流関係校 海外交流アドバイザー
1月	関係機関の特別非常勤講師 地域探究に取り組む全国の高校及び海外 交流高校等 コンソーシアム各代表者
2月	探究中間発表会（学年ごと） グローバルサミット コンソーシアム各代表者
3月	地域課題から世界を考える日 運営指導委員会 発表会実施校
4月	探究発表会（県内外他校） （オンライン発表会も含む） 管内小中学校、市教育委員会 丹波医療センター 同窓会
5月	ローカルキャリア養成セミナー 教員養成イノベーション 看護師養成セミナー ようこそ先輩講演会

(3) 事業の進捗状況の定期的な確認や改善の仕組み（事業のアウトプットやアウトカムの考
え方、目標指標の設定は別添2「目標設定シート」に記載。）

<p>年3回程度計画している運営指導委員会、コンソーシアム運営委員会において事業の進捗状況を確認する。その中で改善策を検討する。オンライン等も適切に活用して、確認できるようにする。</p> <p>①生徒の成長の視点 グループ内での発表、学年での発表、発表会等において、課題へ取組みや視野の広まりが見られたか、また、生徒が発表する場が適切に設定されているかどうかを評価する。最終的に、地域課題の解決に積極的に取り組むかと思うようになったかどうか、多様な価値観を持った人と関わって、学びたいと思うようになったかどうかなど生徒の変容を評価する。また、地域における探究的な学びを活かした進路実現がなされているのかを評価する必要がある。</p> <p>②教員の資質向上 探究活動を効果的に進めるためには、コーディネーターの力を借りながら、教員自身の指導力の向上が図られなければならない。教科会、職員研修会等において、確認できるようにする。 週1回の探究担当者会議、月1回の新学科準備委員会、教育課程委員会により進捗状況を確認しコーディネーターとともに事業の共通理解や調整ができるようにする。</p> <p>③外部機関との連携 大学や関係機関との連携が適切に展開しているかを見る。特に、研究授業や発表会を適切に実施し、オンライン等も有効に活用して助言をいただく。コーディネーターにアドバースをもらいながら、一方の過度な負担にならず持続可能な形になっているかどうかという視点も持つ。</p> <p>④中学生、保護者の視点 新たな学科が、生徒の成長、学校の発展につながり、柏原高校で学びたい、学びせたいという魅力あるものになっているかどうかを評価する。 中学校での説明会、オープン・ハイスクール等でのアンケート結果やWEBページを活用した仕組みを検討する。</p> <p>⑤カリキュラムマネジメントの視点 探究の授業だけで事業が完結するわけではない。学校の教育活動が効果的、機能的に連携しないと一部の教員の負担となる。その連携が図れているかを見る。学校全体が、新学科設置に向けての動きに想いを一致させていくことが必要である。将来的には、コーディネーターの視点を学校経営機能と融合できる仕組みを検討する。</p>

6 成果の普及のための仕組み

- 成果普及のための方策
- ①全国フォーラムでの発表
 - ②県教委主催の各種研修会での先行事例として報告
 - ③地域住民、保護者、中学生への広報、発表会等の活動
 - ・ホームページへの掲載
 - ・学校だより、探究通信(仮称)の発行
 - ・探究活動発表会
 - ・オープン・ハイスクール、出身中学校でのプレゼンテーション
 - ・「グローバルサミット」
 - ・「地域課題から世界を考える日」
 - ④大学等が実施する発表会、研究会への参加
 - ⑤県民局主催丹波地域ビジョン推進委員会への参加
 - ⑥全国、世界で活躍する卒業生を巻き込み、事業への理解と協力体制の構築

8 事業経費 別添3のとおり

- 9 再委託の有無 有 ・ (どちらかに○。有の場合は別添4「再委託先所要経費」及び様式第4「再委託申請書」を提出すること)

10 添付資料

- ① 新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)申請校の概要(別添5)
- ② 令和3年度及び令和4年度入学生の3年間の教育課程票を年度ごとに作成したもの
※新設校の場合は令和4年度入学生のもののみご提出ください

11 管理機関の担当者

担当課・室	高校教育課	担当者	主任指導主事・藤木 作幸
職・氏名			
電話(直通)	078-362-3817	FAX	078-362-4288
担当課メールアドレス			koukouyouikuka@pref.hyogo.lg.jp

7 国の指定終了後の取組継続のための仕組み

- コンソーシアムの継続的な連携が続く仕組みづくり
- 地域社会学科の特色ある学びを支えるのは、コンソーシアムを構築する機関等との継続的に連携が続く仕組みづくりである。国の指定期間内、それぞれの機関と更なる連携・協働を行い、学校内の学びから学校外での学びへと発展できる「地域の学び」となるよう更なる仕組みを構築する。
- コーディネーター機能の維持
- 指定期間後のコーディネーター機能の維持については、
- ①コーディネーター加配に関する予算の確保
 - ②教員のコーディネーター機能の移行
 - ③企業協力による人員配置 等
- の方策を含めて、コーディネーターの望ましいあり方について指定期間中に検討し、方向性を決定する。
- 地元自治体の「地域おこし協力隊」が、コーディネーターとして市内の高等学校を連携して活動することも視野に入りたい。

新たにコーディネーターとなって

一宮 祐輔(丹波市市民活動支援センター)

柏原高校には2020年度「丹BAL」の授業で、講師として参加したことに始まり、今年度9月よりコーディネーター(新学科に向けたカリキュラム開発専門家)として関わることになりました。丹波市市民プラザやカフェの運営、市民活動の実績などを活かし、「高校と地域を繋ぐこと」、「探究学習でアドバイスをすること」を役割として想定されていると思い、年度の途中から従事し始めました。

探究授業の中で一番関わった1年生普通コースでは、実際の授業などを見させてもらう中で、探究学習において土台となる知識や考え方の習熟度が、生徒によって差が大きいことがわかってきました。そこで場当たりのではあったものの、担当の先生方と相談し、全生徒を一同に集め、私自身が数回、講義することになりました。後期授業日程は、内容に対して十分な時間ではなかった様に思いますが、1月末に実施された『地域課題から世界を考える日』では、立派な発表をする生徒が多く、柏原高校生の発表に対するポテンシャルの高さを感じました。

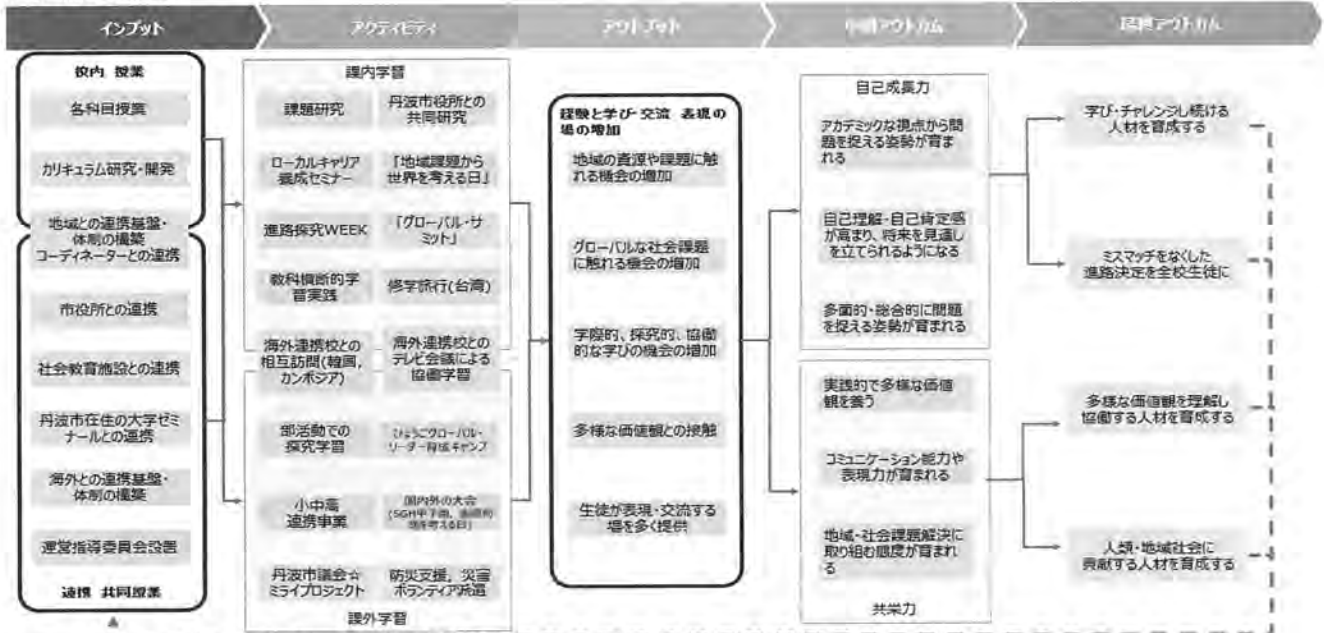
生徒の習熟度差を広げてしまう要因として、指導者側の共通認識不足が挙げられると思います。1月には全職員を対象に、校長、教頭と協力して新学科に向けた話し合いの場を持ちました。短時間、限定的な内容であったにも関わらず、出席者から「同じ方向を見ることができると貴重な場だった」といった感想が複数挙がりました。生徒の進捗に合わせて対応をせざるを得ない授業形式を取っている探究授業では、指導者側で情報を共有し、授業構成から個別の指導方針を統一する必要があります。教科授業を担当しつつ、定期的な打ち合わせは大きな負担となっているようでした。

前述の通り、生徒のポテンシャルは高く、発表に限らず、アイデア出しのワークの際などでも優れた結果を出す生徒がたくさんいることがわかりました。これは、小中学校からアクティブラーニングに慣れてきている若い世代の可能性を感じるばかりです。逆に、指導者側の授業の企画力を問われている現状のようにも感じ、指導者が最大限に能力を発揮できるためには、負担軽減が前提条件になるのではないのでしょうか。外部人材であるコーディネーターの起用は、労働力の総量を増やしている側面はあるものの、そのコーディネーターとの調整という新たな業務も生んでいることは否めません。現状の業務のスリム化が必須です。

コーディネーターとしては、我々の特性を理解し受け入れてもらった上で、主体的にコミュニケーションを計って、より良い学習環境の提供に寄与したいと思います。



ロジックモデル



職員意識調査

下記目的のもとで、職員を対象にした意識調査を行った。

本事業報告書にまとめるにあたって、職員に対する案内を12月8日(木)に行い、回答期限を1月31日(火)として実施した(回答期間55日間)。回答数は職員数41(アンケート作成に携わった教員は除く)に対し13(回答率31.7%)であった。

【目的】

柏原高校の教員の現時点での探究的な学習に関する意識を明らかにし、抱かれている不安の解消と、取り組まれている強みをさらに活かすための今後の研修に対する示唆を得ることを目的とした調査です。

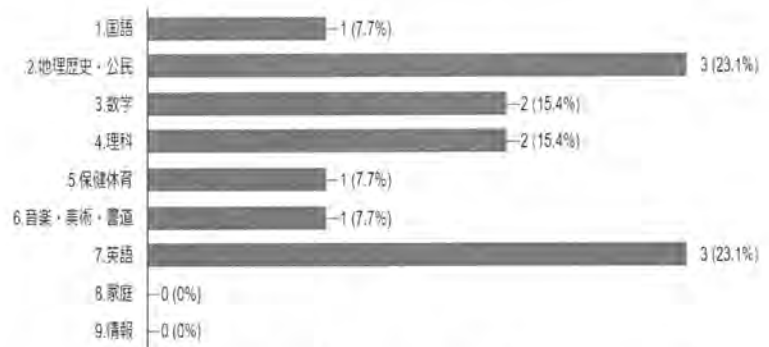
【特記事項】

- ・本アンケートは上記の「研究の目的」のもとに行うこととし、回答内容がそれ以外の目的で用いられることはありません。
- ・解答はすべて統計的に処理し、講評する結果においては個人が特定されないようにします。
- ・任意回答の項目に対して、回答を強いることはありません。無回答であっても不利益を被ることはありません。

それぞれの質問とそれに対する回答は次のとおり。

1. 主に担当している教科を1つ選択してください。

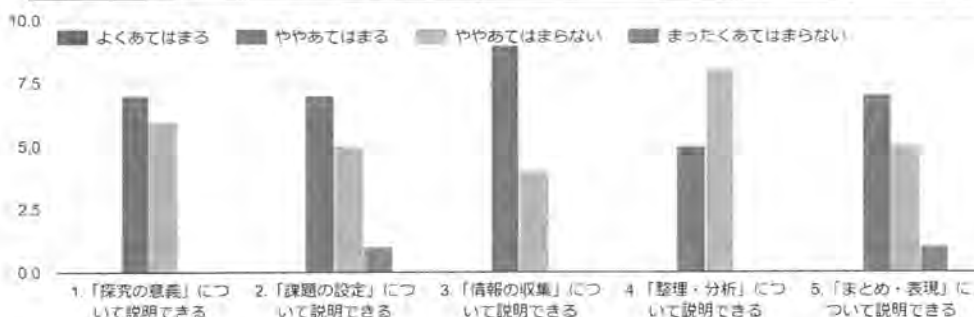
	選択肢	回答数	割合
1	国語	1	7.7%
2	地理歴史・公民	3	23.1%
3	数学	2	15.4%
4	理科	2	15.4%
5	保健体育	1	7.7%
6	音楽・美術・書道	1	7.7%
7	英語	3	23.1%
8	家庭	0	0.0%
9	情報	0	0.0%



2. 探究的な学習について伺います。次の内容について、それぞれ当てはまるものを選択してください。

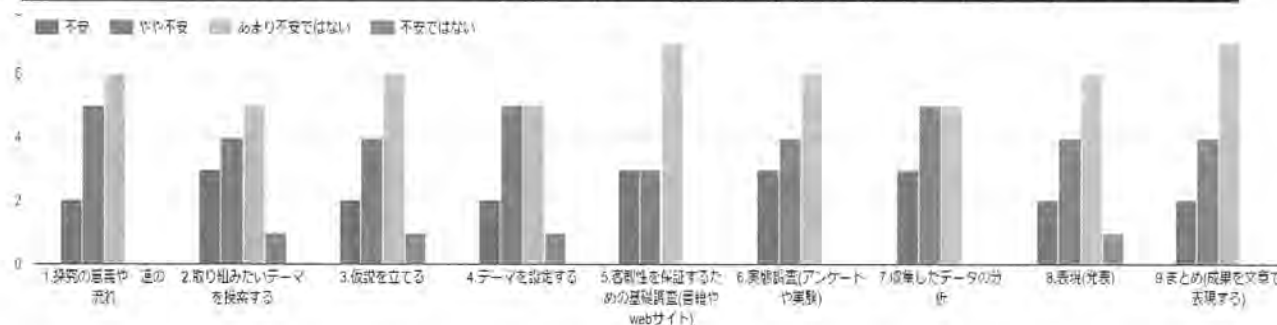
選択肢 ①よくあてはまる ②ややあてはまる ③ややあてはまらない ④まったくあてはまらない

設問	選択肢	①		②		③		④	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1	「探究の意義」について説明できる	0	0%	7	53.8%	6	46.2%	0	0.0%
2	「課題の設定」について説明できる	0	0%	7	53.8%	5	38.5%	1	7.7%
3	「情報の収集」について説明できる	0	0%	9	69.2%	4	30.8%	0	0.0%
4	「整理・分析」について説明できる	0	0%	5	38.5%	8	61.5%	0	0.0%
5	「まとめ・表現」について説明できる	0	0%	7	53.8%	5	38.5%	1	7.7%



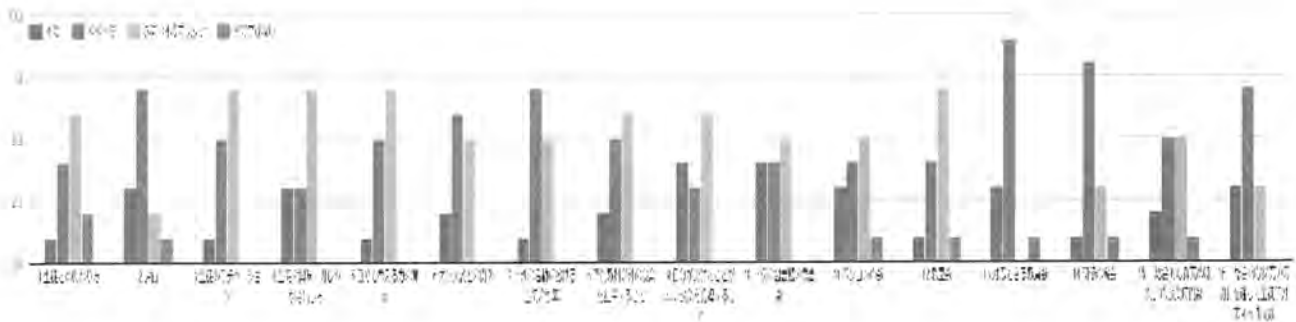
3.「総合的な探究の時間」を担当するにあたり、次のことに対する指導への不安はありますか。それぞれあてはまるものを選択してください。選択肢 ①不安 ②やや不安 ③あまり不安ではない ④不安ではない

設問	選択肢 ①		②		③		④	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 探究の意義や一連の流れ	2	15.4%	5	38.5%	6	46.2%	0	0.0%
2 取り組みたいテーマを摸索する	3	23.1%	4	30.8%	5	38.5%	1	7.7%
3 仮説を立てる	2	15.4%	4	30.8%	6	46.2%	1	7.7%
4 テーマを設定する	2	15.4%	5	38.5%	5	38.5%	1	7.7%
5 客観性を保証するための基礎調査(書籍やwebサイト)	3	23.1%	3	23.1%	7	53.8%	0	0.0%
6 実態調査(アンケートや実験)	3	23.1%	4	30.8%	6	46.2%	0	0.0%
7 収集したデータの分析	3	23.1%	5	38.5%	5	38.5%	0	0.0%
8 表現(発表)	2	15.4%	4	30.8%	6	46.2%	1	7.7%
9 まとめ(成果を文章で表現する)	2	15.4%	4	30.8%	7	53.8%	0	0.0%



4.「総合的な探究の時間」を担当するにあたり、次のことに対する指導への不安はありますか。それぞれあてはまるものを選択してください。選択肢 ①不安 ②やや不安 ③あまり不安ではない ④不安ではない

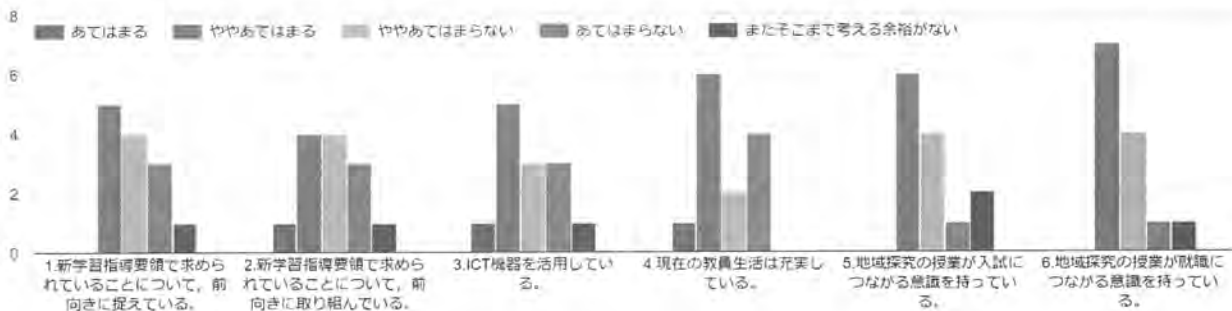
設問	選択肢 ①		②		③		④	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 生徒との関わり方	1	7.7%	4	30.8%	6	46.2%	2	15.4%
2 評価	3	23.1%	7	53.8%	2	15.4%	1	7.7%
3 生徒のモチベーション	1	7.7%	5	38.5%	7	53.8%	0	0.0%
4 生徒の興味・関心の引き出し方	3	23.1%	3	23.1%	7	53.8%	0	0.0%
5 自分で考える力の育成	1	7.7%	5	38.5%	7	53.8%	0	0.0%
6 大学入試との関係	2	15.4%	6	46.2%	5	38.5%	0	0.0%
7 学外の活動における生徒の引率	1	7.7%	7	53.8%	5	38.5%	0	0.0%
8 専門教科以外の授業を担当すること	2	15.4%	5	38.5%	6	46.2%	0	0.0%
9 自分が受けたことがない授業を指導すること	4	30.8%	3	23.1%	6	46.2%	0	0.0%
10 学校の図書館の蔵書数	4	30.8%	4	30.8%	5	38.5%	0	0.0%
11 パソコンの数	3	23.1%	4	30.8%	5	38.5%	1	7.7%
12 教室数	1	7.7%	4	30.8%	7	53.8%	1	7.7%
13 対応できる教員数	3	23.1%	9	69.2%	0	0.0%	1	7.7%
14 研修の機会	1	7.7%	8	61.5%	3	23.1%	1	7.7%
15 「総合的な探究の時間」の授業時間数	2	15.4%	5	38.5%	5	38.5%	1	7.7%
16 「総合的な探究の時間」を通して生徒に対応する時間数	3	23.1%	7	53.8%	3	23.1%	0	0.0%



5. 次の内容について、それぞれ当てはまるものを選択してください。

- 選択肢 ①あてはまる ②ややあてはまる ③ややあてはまらない ④あてはまらない
⑤まだそこまで考える余裕がない

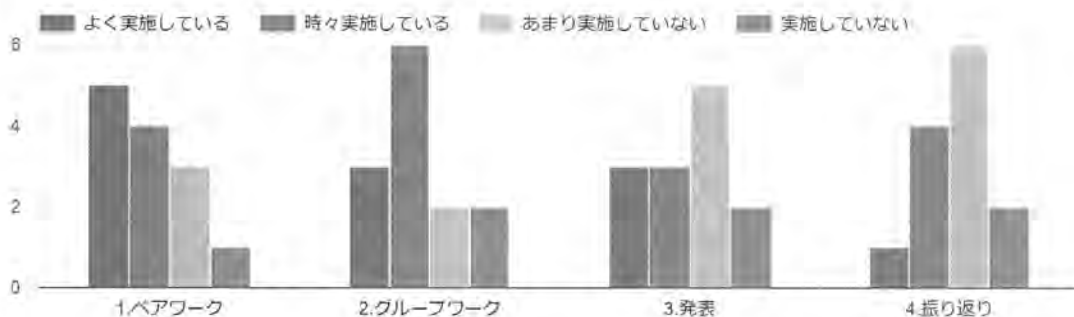
設問	選択肢 ①		②		③		④		⑤	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 新学習指導要領で求められていることについて、前向きに捉えている	0	0%	5	38.5%	4	30.8%	3	23.1%	1	7.7%
2 新学習指導要領で求められていることについて、前向きに取り組んでいる	1	8%	4	30.8%	4	30.8%	3	23.1%	1	7.7%
3 ICT機器を活用している	1	8%	5	38.5%	3	23.1%	3	23.1%	1	7.7%
4 現在の教員生活は充実している	1	8%	6	46.2%	2	15.4%	4	30.8%	0	0.0%
5 地域探究の授業が入試につながる意識を持っている	0	0%	6	46.2%	4	30.8%	1	7.7%	2	15.4%
6 地域探究の授業が就職につながる意識を持っている	0	0%	7	53.8%	4	30.8%	1	7.7%	1	7.7%



6. 担当されている教科において、次のことを生徒に対してどの程度実施していますか。それぞれ、当てはまるものを選択してください。

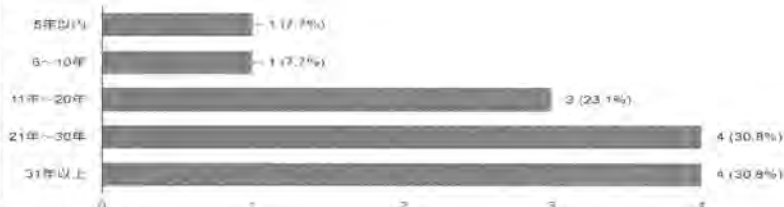
- 選択肢 ①よく実施している ②時々実施している ③あまり実施していない ④実施していない

設問	選択肢 ①		②		③		④	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 ペアワーク	5	0%	4	30.8%	3	23.1%	1	7.7%
2 グループワーク	3	23%	6	46.2%	2	15.4%	2	15.4%
3 発表	3	23%	3	23.1%	5	38.5%	2	15.4%
4 振り返り	1	8%	4	30.8%	6	46.2%	2	15.4%



7. 教員経験年数(講師も含む)について、当てはまるものを1つ選択してください。

選択肢	回答数	割合
1 5年以内	1	7.7%
2 6～10年	1	7.7%
3 11年～20年	3	23.1%
4 21年～30年	4	30.8%
5 31年以上	4	30.8%



8. 新学科に向けて 現在の【知の探究コース】の取り組みで、継続して取り組むべき点や改善した方がよいと思われることはありますか。どんな点が良く(悪く)、どのように改善すればよいでしょうか。生徒らや保護者等の実際の声などご自由に記入ください。

- ・特にありません
- ・グランドデザインが切実に必要です。現在の取り組みを新学科の3年間の課程にどう着地させるか見通しを頂けると幸いです。見通しの上で、12年が次年度行うプログラムと、来年度の新1年が3年間行うプログラムを具体化させるのが良いと考えます。見通しがないと、いま現場で奮闘しておられる先生方が意味を見いだせず疲弊してしまいます。また、一部の分掌に負荷が集中しています。次年度は適切な再編再配置が行われることを希望します。
- ・外部に発表する場があるのは良い
- ・自由テーマ設定、個人探究は、継続して取り組みたい。また、校外での発表の機会を増やすこと、いろいろな講演の機会を設けることをしていきたい。
- ・R4年度2学年を現在担当しています。地域からの講師を招いての授業、課題は年度当初から生徒がテーマについて決定していない状況で特に観点や課題意識がないままに話を聞いているため、すでに別なテーマで関心がある場合、タイムロスになる。R3年度のような家庭教師方式が取れると都度都度自分たちのニーズに合った、なおかつ地域の方の生の声が聴け良いと感じます。地域に出向いてのインタビューなど校外学習、今年度、夏休みに入る前に校外学習の計画があいまいなまま休業期間に入ったため、取り組みにバラつきがあったように思う。5W1Hなどある程度細かく決めて休業期間に入るのが良いと感じます。教師の中で3年間の全体像やカリキュラムをイメージ出来ていないところがあると感じます。1年ではこの能力、2年ではこの能力というように的を絞るのも一つでは。また、1年かけて磨いたアイデアや手に入れた情報も引き継ぐところがなく、実現する機会、継続して磨かれるチャンスがなく単年度で必ず終わるところにもったいなさを感じます。インターアクトなのか、生徒会なのか、もしくは全校での取り組みにするのか工夫してもよいのではと思います。ビブリオバトルのように対戦方式をとり、最優秀に輝いたアイデアについては表彰と実現に向けプロジェクトが進んでいくなど、生徒が探究活動の成果を実感できる仕組みがあると良いと思います。福知山公立大学の地域経営学部教授による出前授業、もしくはこちらが出向いて授業参観などが年度当初に出来ると教師も生徒もノウハウを吸収できるのでと感じた。
- ・深く、そこにエネルギーを注ぎ込み過ぎないことが大切

本校生徒の生活実態・学習状況および意識や活動等に関する実態

兵庫県が行っている『高校生 生活実態・学習状況調査』および『生徒の意識や活動等に関するアンケート』から本校生の状況を明らかにする。

各調査による目的や質問項目およびそれらに対する本校の回答状況を以下にまとめる。

- この調査で得られたデータは、基礎的・基本的な知識や技能だけでなく、思考力、判断力、表現力や主体的に学習に取り組む態度等を含んだ、総体としての「学力」を育成する方策を研究・開発するために実施します。この目的以外には使用しません。
- それぞれの質問について、特に指示のある質問以外は、自分にあてはまるものや、自分の考えに一番近いもの一つ選んで、その番号を回答用紙に記してください。また、質問の意味や答え方が分からないときは、先生に質問してください。

『生徒の意識や活動等に関するアンケート』2023年1月実施

回答数 588(回答率 92.9%(1年 182(回答率 91.5%), 2年 191(回答率 97.9%), 3年 215(回答率 91.5%)))

①本校入学後、地域活動や、ボランティア活動に参加したことがありますか。

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 参加した		27	14.8%	56	29.3%	74	34.4%	157	26.7%
2 参加したことがない		155	85.2%	135	70.7%	141	65.6%	431	73.3%

②ふるさと(自分が住んでいる地域や学校がある地域)の良さやすばらしさを感じますか。

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 感じている		150	82.4%	159	83.2%	172	80.0%	481	81.8%
2 感じていない		32	17.6%	32	16.8%	43	20.0%	107	18.2%

③将来、ふるさとに何らかの形で関わっていきたいと思いますか。

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 思っている		71	39.0%	76	39.8%	114	53.0%	261	44.4%
2 思っていない		111	61.0%	115	60.2%	101	47.0%	327	55.6%

④将来の生き方等について考え、実現するための努力をしていますか。(実現するための努力とは、教科の学習活動、資格取得、部活動、ボランティア活動、習い等の体験活動を含む)

選択肢	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 している		133	73.1%	149	78.0%	162	75.3%	444	75.5%
2 していない		49	26.9%	42	22.0%	53	24.7%	144	24.5%

回答数は586(回答率92.6%(1年184(回答率92.5%), 2年176(回答率90.3%), 3年226(回答率96.2%))

- (1) 1日にどのくらいの時間読書をしますか。(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除きますが, 調べ学習のため読んだ専門書や新書, 電子書籍は含みます。土曜日, 日曜日は除いてください。)

選択肢	1年		2年		3年		計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 全く、または、ほとんどしない	64	34.8%	56	31.8%	149	65.9%	269	45.9%
2 10分より少ない	53	28.8%	30	17.0%	29	12.8%	112	19.1%
3 10分以上30分未満	52	28.3%	68	38.6%	29	12.8%	149	25.4%
4 30分以上1時間未満	11	6.0%	13	7.4%	11	4.9%	35	6.0%
5 1時間以上	4	2.2%	9	5.1%	8	3.5%	21	3.6%

- (2) 土曜, 日曜や休日に, 1日にどのくらいの時間読書をしますか。(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除きますが, 調べ学習のため読んだ専門書や新書, 電子書籍は含みます。)

選択肢	1年		2年		3年		計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 全く、または、ほとんどしない	114	62.0%	114	64.8%	164	72.6%	392	66.9%
2 10分より少ない	21	11.4%	12	6.8%	17	7.5%	50	8.5%
3 10分以上30分未満	25	13.6%	20	11.4%	17	7.5%	62	10.6%
4 30分以上1時間未満	13	7.1%	12	6.8%	11	4.9%	36	6.1%
5 1時間以上	11	6.0%	18	10.2%	17	7.5%	46	7.8%

- (3) 1か月に何冊の本を読みますか。(1年間の平均で一つ選んでください。教科書や参考書, 漫画や雑誌は除きますが, 調べ学習のため読んだ専門書や新書, 電子書籍は含みます。)

選択肢	1年		2年		3年		計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 全く読まない	58	31.5%	47	26.7%	131	58.0%	236	40.3%
2 1冊	85	46.2%	81	46.0%	56	24.8%	222	37.9%
3 2冊	20	10.9%	23	13.1%	20	8.8%	63	10.8%
4 3冊	11	6.0%	16	9.1%	7	3.1%	34	5.8%
5 4冊以上	10	5.4%	9	5.1%	12	5.3%	31	5.3%

- (4) 将来の夢や目標を持っていますか。

選択肢	1年		2年		3年		計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 当てはまる	59	32.1%	56	31.8%	124	54.9%	239	40.8%
2 どちらかといえば当てはまる	86	46.7%	78	44.3%	55	24.3%	219	37.4%
3 どちらかといえば当てはまらない	21	11.4%	28	15.9%	27	11.9%	76	13.0%
4 当てはまらない	18	9.8%	14	8.0%	20	8.8%	52	8.9%

- (5) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

選択肢	1年		2年		3年		計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 役に立つと思う	91	49.5%	90	51.1%	135	59.7%	316	53.9%
2 どちらかといえば、役に立つと思う	86	46.7%	77	43.8%	77	34.1%	240	41.0%
3 どちらかといえば、役に立たないと思う	5	2.7%	6	3.4%	10	4.4%	21	3.6%
4 役に立たないと思う	2	1.1%	3	1.7%	4	1.8%	9	1.5%

(6) 学級の生徒との間で話し合う学習活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 当てはまる		61	33.2%	61	34.7%	91	40.3%	213	36.3%
2 どちらかといえば当てはまる		106	57.6%	91	51.7%	100	44.2%	297	50.7%
3 どちらかといえば当てはまらない		12	6.5%	19	10.8%	20	8.8%	51	8.7%
4 当てはまらない		5	2.7%	3	1.7%	9	4.0%	17	2.9%
5 話し合う活動を行っていない		0	0.0%	2	1.1%	6	2.7%	8	1.4%

(7) 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 当てはまる		18	9.8%	25	14.2%	71	31.4%	114	19.5%
2 どちらかといえば当てはまる		101	54.9%	102	58.0%	120	53.1%	323	55.1%
3 どちらかといえば当てはまらない		55	29.9%	43	24.4%	30	13.3%	128	21.8%
4 当てはまらない		10	5.4%	6	3.4%	5	2.2%	21	3.6%

(8) 学校の授業がどの程度分かりますか。

	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 よく分かる		11	6.0%	13	7.4%	33	14.6%	57	9.7%
2 大体分かる		84	45.7%	94	53.4%	128	56.6%	306	52.2%
3 分かることと分からないことが半分 ずつぐらいある		74	40.2%	66	37.5%	48	21.2%	188	32.1%
4 分からないことが多い		12	6.5%	3	1.7%	12	5.3%	27	4.6%
5 ほとんど分からない		3	1.6%	0	0.0%	5	2.2%	8	1.4%

(9) 学校の授業時間以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか。(一つ選んでください。土曜日、日曜日は除いてください。学校の行き帰りや早朝・放課後の学習、塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含めてください。)

	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 全く、または、ほとんどしない		10	5.4%	15	8.5%	24	10.6%	49	8.4%
2 30分より少ない		33	17.9%	20	11.4%	16	7.1%	69	11.8%
3 30分以上1時間未満		66	35.9%	57	32.4%	28	12.4%	151	25.8%
4 1時間以上2時間未満		60	32.6%	49	27.8%	35	15.5%	144	24.6%
5 2時間以上3時間未満		10	5.4%	26	14.8%	24	10.6%	60	10.2%
6 3時間以上		5	2.7%	9	5.1%	99	43.8%	113	19.3%

(10) 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思いますか。

	学年	1年		2年		3年		計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 そう思う		24	13.0%	17	9.7%	57	25.2%	98	16.7%
2 どちらかといえばそう思う		33	17.9%	30	17.0%	49	21.7%	112	19.1%
3 どちらかといえばそう思わない		63	34.2%	61	34.7%	56	24.8%	180	30.7%
4 そう思わない		64	34.8%	68	38.6%	64	28.3%	196	33.4%

続いて、『高校生 生活実態・学習状況調査』の経年変化を掲載する。これにより、各年次や同一学年内での比較が可能になる。

表中の数値は、各年次による学年ごとの回答数に対する割合を表している。なお、質問項目が変更された場合は斜体で表記している。

(1) 1日にどのくらいの時間読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きますが、調べ学習のため読んだ専門書や新書、電子書籍は含みます。土曜日、日曜日は除いてください。)

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 全く、または、ほとんどしない		34.8%			29.6%	31.8%		30.0%	29.9%	65.9%	31.1%	34.3%	58.6%
2 10分より少ない		28.8%			16.6%	17.0%		21.1%	26.1%	12.8%	23.6%	15.5%	14.0%
3 10分以上30分未満		28.3%			34.7%	38.6%		32.1%	32.5%	12.8%	28.8%	34.3%	14.0%
4 30分以上1時間未満		6.0%			11.1%	7.4%		11.0%	6.0%	4.9%	9.0%	8.5%	6.0%
5 1時間以上		2.2%			8.0%	5.1%		5.9%	5.6%	3.5%	7.5%	7.5%	7.4%

(2) 土曜、日曜や休日に、1日にどのくらいの時間読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きますが、調べ学習のため読んだ専門書や新書、電子書籍は含みます。)

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 全く、または、ほとんどしない		62.0%			50.8%	64.8%		55.3%	66.7%	72.6%	55.7%	61.0%	65.6%
2 10分より少ない		11.4%			8.5%	6.8%		13.1%	9.8%	7.5%	14.6%	8.0%	7.9%
3 10分以上30分未満		13.6%			12.6%	11.4%		9.3%	9.4%	7.5%	12.7%	11.7%	11.6%
4 30分以上1時間未満		7.1%			13.6%	6.8%		12.2%	4.3%	4.9%	5.2%	8.9%	4.7%
5 1時間以上		6.0%			14.6%	10.2%		10.1%	9.8%	7.5%	11.8%	10.3%	10.2%

(3) 1か月に何冊の本を読みますか。(1年間の平均で一つ選んでください。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きますが、調べ学習のため読んだ専門書や新書、電子書籍は含みます。)

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 全く読まない		31.5%			19.6%	26.7%		29.5%	36.3%	58.0%	26.9%	31.0%	56.7%
2 1冊		46.2%			45.7%	46.0%		39.7%	39.7%	24.8%	49.1%	41.8%	25.6%
3 2冊		10.9%			17.6%	13.1%		16.9%	10.7%	8.8%	12.7%	11.3%	8.8%
4 3冊		6.0%			8.5%	9.1%		5.9%	8.1%	3.1%	5.2%	7.5%	1.9%
5 4冊以上		5.4%			8.5%	5.1%		7.6%	5.1%	5.3%	5.7%	8.0%	7.0%

(4) 将来の夢や目標を持っていますか。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 当てはまる		32.1%				31.8%			54.9%				
2 どちらかといえば当てはまる		46.7%				44.3%			24.3%				
3 どちらかといえば当てはまらない		11.4%				15.9%			11.9%				
4 当てはまらない		9.8%				8.0%			8.8%				

※④世の中のいろいろなできごとを知ったり、情報を得たりするため、ふだん、行っていることは何ですか。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 テレビのニュース番組					73.4%			64.1%	61.5%		68.4%	59.6%	59.5%
2 新聞					12.6%			9.3%	7.7%		9.4%	7.5%	12.1%
3 インターネット					75.9%			74.3%	83.8%		72.6%	77.0%	76.7%
4 本や雑誌					7.5%			4.6%	2.1%		3.8%	2.8%	6.0%
5 特に何もしない					2.5%			4.6%	3.8%		5.7%	2.8%	4.2%

(5) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 当てはまる		49.5%				51.1%			59.7%				
2 どちらかといえば当てはまる		46.7%				43.8%			34.1%				
3 どちらかといえば当てはまらない		2.7%				3.4%			4.4%				
4 当てはまらない		1.1%				1.7%			1.8%				

※⑤勉強は大切だ。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 そう思う					65.3%			63.3%	69.7%		76.9%	73.2%	85.1%
2 どちらかといえばそう思う					29.6%			28.7%	24.4%		17.9%	22.1%	12.6%
3 どちらかといえばそう思わない					1.5%			3.0%	3.0%		0.5%	3.3%	0.9%
4 そう思わない					1.0%			1.3%	0.4%		0.9%	0.9%	0.0%
5 わからない					2.5%			3.4%	2.6%		3.3%	0.5%	1.4%

(6) 学級の生徒との間で話し合う学習活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 当てはまる		33.2%				34.7%			40.3%				
2 どちらかといえば当てはまる		57.6%				51.7%			44.2%				
3 どちらかといえば当てはまらない		6.5%				10.8%			8.8%				
4 当てはまらない		2.7%				1.7%			4.0%				
5 話し合う活動を行っていない		0.0%				1.1%			2.7%				

※⑥良い成績を取れるよう、勉強したい。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 そう思う					63.8%			59.1%	61.1%		73.1%	69.0%	63.3%
2 どちらかといえばそう思う					29.6%			32.5%	32.9%		25.5%	24.4%	30.7%
3 どちらかといえばそう思わない					3.5%			2.5%	0.9%		0.0%	3.3%	2.3%
4 そう思わない					1.0%			3.4%	4.3%		0.5%	2.8%	2.8%
5 わからない					2.0%			2.1%	0.9%		0.9%	0.5%	0.9%

(7) 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 当てはまる		9.8%				14.2%			31.4%				
2 どちらかといえば当てはまる		54.9%				58.0%			53.1%				
3 どちらかといえば当てはまらない		29.9%				24.4%			13.3%				
4 当てはまらない		5.4%				3.4%			2.2%				

※⑦入学試験や就職試験に役立つよう、勉強したい。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 そう思う					72.9%			64.1%	75.2%		77.8%	76.5%	76.7%
2 どちらかといえばそう思う					19.6%			30.4%	19.7%		19.8%	20.2%	20.9%
3 どちらかといえばそう思わない					3.5%			1.3%	3.0%		0.5%	1.9%	0.9%
4 そう思わない					0.5%			1.3%	0.4%		0.5%	0.5%	0.5%
5 わからない					3.5%			2.5%	1.7%		1.4%	0.9%	0.9%

(8) 学校の授業がどの程度分かりますか。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 よくわかる		6.0%			10.6%	7.4%		5.5%	5.1%	14.6%	6.6%	6.6%	12.6%
2 大体わかる		45.7%			53.8%	53.4%		46.8%	55.6%	56.6%	43.9%	52.1%	60.5%
3 わかることとわからないことが 半分ずつぐらいある		40.2%			32.2%	37.5%		37.6%	31.6%	21.2%	43.4%	36.2%	24.2%
4 わからないことが多い		6.5%			2.0%	1.7%		7.6%	5.6%	5.3%	4.2%	4.7%	2.3%
5 ほとんどわからない		1.6%			1.5%	0.0%		1.7%	1.7%	2.2%	1.9%	0.5%	0.5%

(9) 学校の授業時間以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか。(一つ選んでください。土曜日、日曜日は除いてください。学校の行き帰りや早朝・放課後の学習、塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含めてください。)

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 全く、または、ほとんどしない		5.4%			9.5%	8.5%		13.9%	13.7%	10.6%	6.6%	8.9%	7.4%
2 30分より少ない		17.9%			15.6%	11.4%		11.8%	15.8%	7.1%	7.5%	5.6%	6.5%
3 30分以上1時間未満		35.9%			22.1%	32.4%		26.2%	17.1%	12.4%	23.1%	19.7%	11.2%
4 1時間以上2時間未満		32.6%			39.7%	27.8%		31.6%	33.8%	15.5%	41.0%	41.8%	17.7%
5 2時間以上3時間未満		5.4%			9.5%	14.8%		13.5%	17.5%	10.6%	19.8%	20.2%	15.3%
6 3時間以上		2.7%			3.5%	5.1%		1.7%	2.1%	43.8%	1.4%	3.8%	41.9%

(10) 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思いますか。

選択肢	回生 学年	77回生			76回生			75回生			74回生		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 そう思う		13.0%			11.1%	9.7%		16.0%	17.9%	25.2%	17.0%	15.5%	19.1%
2 どちらかといえばそう思う		17.9%			17.6%	17.0%		23.2%	16.7%	21.7%	21.7%	17.4%	21.9%
3 どちらかといえばそう思わない		34.2%			31.7%	34.7%		23.6%	25.6%	24.8%	34.9%	33.3%	30.7%
4 そう思わない		34.8%			39.7%	38.6%		35.4%	39.7%	28.3%	25.0%	33.3%	28.4%

各学年の取り組み

I 学年 展開計画

I 学期(共通内容)

日程	活動内容
4/21 木	オリエンテーション・個人で指定テーマでプレインストーミング【宿題】
4/28 木	指定のテーマで情報の調べ方・収集実践 東京学芸大学の探究 YouTube
5/12 木	アウトライン(プレゼン資料の型)を指定し,発表準備
5/26 木	グループ内発表 → 「スタンディングデスクの活用」をテーマに紙芝居形式(手書き)で実施
6/2 木	改善に向けた推敲①(発表での気づき紹介・改善に向けた推敲) 探究テキストを利用,「問い立て」の仕方
6/16 木	改善に向けた推敲②
6/23 木	高校生ならではの探究活動にレベルアップさせる作戦・実践①
7/15 金	発表会 高校生ならではの探究活動にレベルアップさせる作戦・実践② クラス発表・他者評価による代表決定【HR 教室】 探究的学びを経験した先輩と語る会【柏陵ホール】 講師自己紹介→講師の探究活動と今のつながり→事前質問を元にパネルディスカッション →講師による講評・自己評価と振り返りアンケート

2 学期以降

日程	知の探究コース	一般コース
7/20 夏季休業中	「アイデアの出し方・しぼり方」 2 学期以降のテーマを考える。	
9/1 木	プレゼン①夏の取り組み内容 評価シート①(自己評価)	2 学期の予定確認・探究を通じて自分がやってみたいことを考える
9/15 木	プレゼン②	行政連携授業① 身近な地域課題から,地域社会の構成とそれを支える仕事を知る
9/22 木	『水の東西』を題材とした授業 様々な視点について学ぶ	学んだ課題共有・丹波地域の課題を住民目線で考え,共有する意義を学ぶ
9/29 木	テーマ設定・希望面談	行政連携授業② 身近な地域課題の解決方法の考え方を学ぶ
10/6 木	テーマ設定・希望面談	グループワークの作法を学ぶ
10/20 木	どのような調査を予定しているかの共有	与えられた地域課題から解決すべき問題点を絞り込む① プレインストーミングから関係考察
10/27 木	テーマ決定 探究テキストを利用して,「仮説の立て方」と「発表評価」	与えられた地域課題から解決すべき問題点を絞り込む② ウェビングマップを用いた分析
11/10 木	フィールドワークの充実に向けて アウトラインの考え方を理解する	中間報告会に向けた発表準備 手順・役割分担・評価項目などの確認

11/17	木	発表時に意識したいこと 11/28 市立尼崎高校発表交流	行政連携授業③ 中間報告会(2時間連続) ・焦点化した門外の提示と解決が重要と考えた理由
12/1	木	共通な悩んだ問題に対する支援 12/18 東京学芸大学主催イベント(東京)発表・・・6名参加	中間報告会で得られた助言をもとに研究計画を再検討・ 最終発表枠組みの説明
12/22	木	スライド作成・発表練習	発表スライド枠の共有・冬休み課題(主張に対する根拠) 検討
1/12	木	発表・スライド修正	発表スライド作成①
1/19	木	発表・スライド修正	発表スライド作成②
1/26	木	発表・スライド修正	発表スライド作成③および通し練習
1/27	金	活動報告会「地域課題から世界を考える日」	
2/9	木	振り返り・自己評価	発表会で得られた助言をもとに振り返りレポート作成①
2/16	木	活動報告まとめ	1年次総探評価アンケート実施・振り返りレポート②
3/2	木	活動報告まとめ	振り返りレポート③ ・高校生活における学びの計画レポート作成
3/16	木	活動報告まとめ	振り返りレポート④

1 学年活動報告

1 学年主任 廣内健人

第一学年は、探究活動の基礎基本を習得することを意識した活動を行った。1学期はテーマを指定して(スタンディングデスク)、調べ方・推敲・発表を実際に行いながら手法を習得する練習を行った。また7月の丹 BAL 発表会では、探究的学びを体験した先輩と語る会に参加し、模範解答のない問に対して自分なりの理解を求めて取り組んだ先輩たちの実例をもとに、自らの振り返りを行った。

2学期以降の活動では、テーマを身近な課題に求めて、1学期に学んだ手法の実践および探究的な考え方のさらなる理解を試みた。1組は生徒各自の興味関心を出発点として、テーマ設定そして内容の深化に至るまで、担当教員らの助言を受けながら個別の活動を行った。2～5組については、生徒たちに身近なテーマの設定を検討するなかで、丹波市役所のご協力を頂いて7つの身近で具体的な地域課題(公共交通、環境教育、健康管理、化石資源、生物多様性、高校改革、国際比較)の設定を行った。市役所の職員から各講座についての講話を聴き、生徒の希望に沿って各講座への振り分けを行った。そしてその内で少人数のグループを作り、市から与えられた情報から課題を設定し、問題点を見つけ出し、それに対する自分たちなりの解決案をデータなど証拠をもとにまとめようとする取り組みを行った。学年全体のまとめとして、1月27日の「地域課題から世界を考える日」において今年度の成果を発表した。

今年度の取り組みを基に、習得した探究的な考え方や手法・主体的な態度・協働する姿勢などを更に深化向上させ、自己実現に結びつくよう、次年度以降の取り組みにつなげたい。



探究Ⅰの活動では、「答えがすぐに見つからなかったり、答えが複数あったりする問いに対して、自分なりの答えを探していく活動」を目指し、自分の興味関心のある事柄で、疑問に思うことから探究するテーマを探し、それについて、自分の頭で考えて自分なりに答えを出して進んでいくという活動を進めた。

1学期最初のガイダンスでは、興味関心のあるものからスタートし、気になることを深く考えて、自分なりの答えを出していくことを繰り返すのが探究であること。その活動を通して、課題の設定、情報の収集、情報の整理分析、まとめ表現のスキルを身に付けることを目標にすること。そして、探究の先にあるのは、就きたい職業や学びたい学問に繋がるものであることなどの説明を受けた。続いて、「スタンディングデスクの活用」というテーマで、探究発表をするまでの一通りのスキルを学んでいった。

また、7月15日の「探究的な学びを経験した先輩と語る会」においては次のようなことが語られた。

- ・迷い続ける楽しさ、面白さ、どうしたらかわからないモヤモヤを大切に
- ・自分の能力を使おう。高校生でも大人と対等に戦える。
- ・周りの価値観で生きるのではなく、自分の幸せを考えたい。
- ・正解が分からなくても、自分の経験に自分で意味を見いだせたら良い。

2学期には、スキルアップを図りながら、個人テーマに沿って探究活動をした。2学期の取り組みは、生徒の人数分のテーマが存在しているので、常に、クラス内でどのようなテーマに取り組んでいるのかを意識し、卒業生を招き興味のある話が聞ける機会を設定したり、先行論文を紹介したりするなどのことを考えた。基本的には、生徒の興味関心のあるもので、生徒のスピードに合わせての活動だったので、担当者としては、スキル面を教示することと情報収集で外部との仲介役をする程度であった。



11月30日に生徒アンケートを実施した。

- ・テーマ設定は、やりやすさ、楽しさ、深まりの観点から総合的に見て自由設定を希望している生徒が多い。
- ・地域課題に取り組むには、講義を受けるより、実際に地域テーマに取り組むことを希望している生徒が多い。
- ・探究スキルは、実際にテーマに取り組みながら学びたいと考える生徒が多い。
- ・探究に取り組むにあたって、進路活動と繋げたいと考えている生徒が多い。
- ・スキル面のサポートが必要である。
- ・悩みは個人個人異なるので、常時面談を通して意識の共有が必要である。

東京学芸大学の「探究共創イベント」に6名が参加し、取り組みを発表できたことは評価したい。課題と今後の予定として、2学期以降、自由テーマ設定にして取り組んできたが、テーマ設定に思っていた以上に時間がかかった。これは、担当者で個別面談をすることで深く考えることに結びついたので、大切な時間であったと考える。しかし、テーマ設定から発表までの時間で、情報を収集する時間が不足した。そのため、単年度内で成果物の完成までを目指すのではなく、学年を超えた展開設計が必要と感じた。



2 学年展開計画

月	日		知の探究コース(2コマ連続)	一般コース
4	14	木	オリエンテーション	オリエンテーション
	21	木	学术论文の調べ方,呼んでもらいたい講師選び	テーマの設定
	28	木	講師講話 班で講話をまとめ,発表,情報共有化(ブレインストーミング,KJ法→ポスター作成→発表=共有化)	グループ分け ・活動計画作成
5	12	木	丹波市役所各課の講話	1学期研究テーマ決定
	19	木	班で講話をまとめ,発表,情報共有化(ブレインストーミング,KJ法→ポスター作成→発表=共有化)	班別研究①
	26	木	丹波地域で活躍する講師講話1 班で講話をまとめ,発表,情報共有化(ブレインストーミング,KJ法→ポスター作成→発表=共有化)	班別研究②
6	2	木	丹波地域で活躍する講師講話2 班で講話をまとめ,発表,情報共有化(ブレインストーミング,KJ法→ポスター作成→発表=共有化)	班別研究③
	16	木	班分け(自分の取り組みたい課題) →問い立てへ	中間発表に向けた準備
	23	木	自分の課題に対応した先行研究検索と特定/精読	中間発表に向けた準備
7	14	木	先行研究紹介 夏休みフィールドワーク内容吟味・精査・日程決定	中間発表準備
9	1	木	テーマ設定	2学期のテーマ設定
	8	木	テーマ設定	活動計画の作成
	15	木	テーマ設定	班別研究①
	22	木	研究テーマ確定 論文構成(1次)完成←モデル論文の真似	班別研究②
	29	木	仮説設定:調査すべき対象の明確化・モデル論文選択	班別研究③
10	6	木	モデル論文精読 集めるデータ明確化,論文構成の位置づけ	班別研究④
	20	木	データ集め→グラフ化・表化	修学旅行に向けて①
	27	木	データ集め→グラフ・表を入れて,伝えたいことの箇条書き	修学旅行に向けて②
11	10	木	伝えたいことの箇条書き・外部発表に向けたパワポ作り	修学旅行に向けて③
12	1	木	外部発表パワポ完成 期末考査後データ追加・パワポ修正	発表会に向けて①
	15	木	外部発表パワポ修正・発表練習	発表会に向けて②
	18		外部発表(甲南大学リサーチフェスタ)	
	20	火	2年1組・1年1組発表会	クラス発表・学年発表
	22		発表を受けての省察	
1	12	木	発表を受けて内容の修正	発表内容修正
	19	木	内容の修正	発表内容修正
	26	木	発表練習	発表練習
	27	金	活動報告会「地域課題から世界を考える日」	
2	5		高校生 SDGs探究発表会参加	
3学期			総合選抜型入試基準のパワポ・ポスター作成	成果まとめ・振り返り

探究Ⅱ(2年1組)活動報告

2年1組担任 西本 秩抄

昨年度の探究Ⅰでは、地域の課題について探究活動を行った。生徒達に昨年の感想を聞くと、「問い」を立てることの難しさを感じている一方で、グループ内で話し合いながら探究を進めていく協働作業に関しては一定の楽しさを覚えたようであった。しかし、探究Ⅱにおいて、昨年度のテーマを引き継ぐのかどうかについては、ほとんどの生徒が「新たなテーマを設定したい」と答えた。今年度は、まず1学期に丹波地域で活躍する講師の方々のお話を聞き、そこから徐々にテーマを絞っていく作業を行った。そして、1学期の終わりには、1名～6名編成の12の班に分かれて探究活動を行うこととなった。夏休みから2学期当初にかけては、論文精読やフィールドワークを行った。先行研究の論文を読むことによって、課題をはっきりと捉えられた班もあったが、論文の内容をきちんと捉え切れないところもあった。フィールドワークにおいても、自分たちのニーズに合ったフィールドワーク先が見つかり、貴重な話が聞けた班もあれば、フィールドワークを行うこと自体が難しかった班もあった。また、最初に立てたテーマでは思うように進まず、テーマが二転三転した班がいくつかあった。どの班も、校内外でアンケートを実施したり、インターネット上でデータをとったりしながら、課題に対する自分たちなりの答えを探す作業を行った。12月には、甲南大学のリサーチフェスタに参加し、オンラインではあったが初めて校外に向けての発表を行った。また、校内でも1年生と合同での発表会を行い、1月の「地域課題から世界を考える日」、2月の兵庫高校での「SDGs探究発表会」など、発表の機会が続いた。生徒達は、他校の発表を聴き、自分達の成果を発表する中で、自分達の探究がまだ途上であることを感じたようである。

やはり、自身の興味・関心のあるテーマを設定し、そこから問いを立て、データを集め、分析し、仮説を立てて検証する一連の作業を行うには、それなりの時間を必要とする。探究Ⅰ、探究Ⅱと行う中で、それぞれ単年度での一定の成果を出すことはできた。しかし、探究Ⅰ～Ⅱの2年間を一つの大きな塊として活動できれば、もっと様々な紆余曲折を経ることで、より深い探究の学びや、探究の楽しさを感じられたのではないかと思う。ただ、探究に向かう姿勢、探究活動を行うためのスキルは身につけることができた。これを、さらなる学びに生かしてほしい。

総合Ⅱ(2年2組～5組)活動報告

2学年主任 梶村 康人

一般クラスでは、自分の興味関心に応じて、特に自分の将来したいことや進路に繋がるようなテーマを設定して探究を行った。また、テーマによってはあるが、1年次の「丹波の魅力をおすそ分け」の続きで丹波地域の課題を考え、修学旅行で行く沖縄と比較したりするなど地域課題も含めて探究活動を行った。

研究班は5人までとし、個人での活動も可とした。また、基本的にはタブレットを使って教室で行った。テーマの設定についても調べ学習や何回でも再設定可とし、「学びのサイクル」の中でテーマを深めていけるようにした。また、7月に中間発表を行い、そこでの課題を夏休みのフィールドワークに生かすことによって2学期の活動に繋ぐようにしようとした。10月からは沖縄修学旅行を念頭に置き、現地でのフィールドワークなどの計画を立て、研究テーマに取り入れることができる班が活動や発表に生かせるようにした。12月に研究発表会を行い、各班で取り組んできた成果をスライド発表した。発表の内容は、それなりに形にはなっているものの、調べ学習の範疇から抜け出していないものが多く、内容がまだまだ深められていないという印象であった。その発表内容が出発点であり、そこからまた新たな「問い」を考えたらもっといいものができるのではないかと思った。次の学年に研究を引き継ぎ、それを代々繋げていくことが大切である。1月には、「まとめ」として、スライドと文章でA4数枚にまとめる作業を行った。週1単位なので、論文を書くことはできなかったが、せめて次の学年が生かせるような形にしたいと考えている。

最後に、探究学習をすることによって生徒の何を伸ばし、どのような力を身に付けさせるのかという具体的なビジョンを考え、次の学年につなげていくことがこれからの課題であると考える。

3 学年展開計画

【総合的な探究の時間】一般コース

日程	学習内容	留意事項
4 / 18 月	オリエンテーション 他己紹介取材	具体的な進路実現に向けて クラス単位でペアリング作成 ペアの相手の紹介をするための情報収集&紹介原稿作成
4 / 25 月	他己紹介発表①	クラス毎に他己紹介の発表をしていく
5 / 2 月	他己紹介発表②	クラス毎に他己紹介の発表をしていく
5 / 9 月	自己紹介文作成	他人からの評価を踏まえて自己紹介文の作成
5 / 16 月	面接試験について	資料の調べ方・受験報告の見方・所作等の基本事項
5 / 23 月	面接実戦練習準備①	自分の進路希望先の情報収集
5 / 30 月	面接実戦練習準備②	メンバーの希望進路の調査&希望先情報収集①
6 / 6 月	面接実戦練習準備③	メンバーの希望進路の調査&希望先情報収集②
6 / 13 月	面接実戦練習準備④	メンバーの模擬面接官質問用紙の作成
6 / 20 月	面接実戦練習準備⑤	自分の進路先面接ノートの制作(志望動機作成)
6 / 27 月	模擬面接練習①	面接練習及び問題点の洗い出し
9 / 5 月	模擬面接練習②	2回目の面接練習
9 / 12 月	小論文講座①	表記, 構成など基礎事項のふりかえり
9 / 26 月	小論文講座②	志望理由書のリトライ
10 / 3 月	小論文講座③	自己PRの仕方
10 / 24 月	小論文講座④	自己PR書の完成
10 / 31 ~	まとめ	ポートフォリオの形式でまとめる

【グローバル】学校設定科目(文系選択科目)

	知の探究コース(選択人数 3 人)	一般コース(選択人数 13 人)
1 学期	テーマ設定	課題研究について ・調べ学習と探究活動の違い・個人研究のテーマ決め ・リサーチクエスチョンについて
	台湾との交流・インタビュー Zoom	研究計画書の作成・フィールドワーク計画 パワーポイント作成 ・中間発表会
2 学期	個人での研究	・調査分析
	プレゼンテーション作成	・まとめ・発表練習会 ・探究活動発表会
	英語によるプレゼンテーション	論文作成

3年間の総合的な探究の時間を終えて

3 学年主任 土井 敬子

3年間を通じて、基礎知識の獲得→討論→整理・創造→発表という流れを多く取り入れて活動してきた。身につけさせたい力(①聴く力 ②読む力 ③伝える力 ④考える力 ⑤発表する力 ⑥協働する力)のうち、特に⑤の発表する力は目に見えて向上した。発表に至るまでの過程で協働をすることもできるようになった。特に1年次はコロナ禍で協働する機会が極端に少なく、総合の発表が良い機会となった。

「地域課題から世界を考える」ために、まずは自分の住んでいる丹波地域に目を向け、その魅力を再認識し、発信することの大切を学べたと思われる。自分の住んでいる地域だけに留まらず、台湾との交流や他の地域を知ることにより、視野や考え方を広げられたのではないかと。そして、自分自身を見つめなおし、模擬面接を実施することにより、進路に対する考えを整理分析し、更に志望理由書を作成することにより、進路実現に向けた意欲を高めることができたと思われる。

第1学年:

内容:地域の魅力に関する探究活動。探究活動に対する基礎学習をした後、班で協働学習をした。地域の魅力を見つけ、班内で討論し、テーマ設定。必要に応じ、フィールドワークやアンケートを行い、まとめ、発表をした。

ねらい:地域の魅力を知り、それを発信することにより、読む・書く・伝える・聴く・まとめる・表現する力をつける。その過程で協働することの大切さを学ぶ。

第2学年:

内容:日本における防災、台湾の歴史や時事問題について、書籍、講演会、修学旅行を通じて学び、台湾の高校生とオンラインで交流した。

ねらい:「防災」をテーマに台湾との交流を通して、海外の高校生の意識の違いを学び、その理解を深めることにより、国際理解をする。講演会を通じて台湾とは何か、国とは何か、国際交流とは何かを考える。また、丹波地域と修学旅行の行き先である九州との類似点と相違点を学ぶことにより、「防災」についてより深く学び、日本や自身の地域についての理解を深める。

第3学年:

内容:友人のプロフィールを作成し、他己紹介をする。それを基に自身のプロフィールを作成し、模擬面接を実施(面接官と受験者の両方を順番に経験)。更に志望校を詳しく分析、調査し、自身の志望理由書を作成。

ねらい:模擬面接や小論文に取り組む中で、他人を通して自己の魅力について考えるとともにそれを表現するための言動や文書スキルを学ぶ。また目的や意図に応じた情報の集め方を通じて、進路に対する考えを整理分析し、自分の考えや意見を深める。志望理由書を作成することにより、進路に対する意識や意欲を高める。

知の探究コース「グローバル」活動報告

3年1組担任 芦田 悠

この授業は、知の探究コース3年生の選択科目で、今年度は3名が履修した。個人でテーマを設定し、それを1年間継続して研究した。毎回、2名のALTが授業に入り、英語での活動や研究を行った。最終的には、研究したテーマを英語でプレゼンテーションすることを目標とした。2年時にグループで取り組んだ活動を発展させたり、そこから派生させた新たなテーマを設定した。テーマは、”The communication between foreign people : the best attitude for learning other languages “,” City sightseeing tours and sharing school experiences in practice, with reference to "Nagasaki Saruku" For the sake of building trusting relationships(長崎さるくめちあるきの実践)”,” Bridge Project(高校生が創る丹波の未来への架け橋プロジェクト)”であった。

1学期は、テーマ設定を終えた後に、プレゼンテーションやインタビューの方法をALTから学び、最後のプレゼンテーションを意識して取り組んだ。それに加えて、5月から8月にかけて数回にわたり、台湾桃園市の治平高級中学の生徒(日本語を学習している生徒が中心)とオンラインで交流をした。互いの学校生活などを紹介し合い交流を深めた後に、研究テーマに関連する内容の質問を台湾の高校生に行った。探究に関連する話題にとどまらずに交流することができたため、生徒たちは「近くにある国でも文化の違いがあることを知ることを実感した。」「さまざまな価値観と触れ合う事ができるので自分自身と向き合えた。」という感想を語っていた。

2学期は、プレゼンテーション用のスライドの作成が活動の中心となった。伝えたい内容があるのに英語の語彙が追いつかないもどかしさを感じながらも、めげずに表現を増やしていった。12月20日の探究総合発表会で、他学年の生徒の前で英語でのプレゼンテーションを行った。



今年度は、3名の選択者のうち、2名が探究の内容を生かして、学校推薦型選抜や総合型選抜を利用して国公立大学を受験した。それらの入試を利用しなかった1名も、大学での専攻分野に関連する内容に関して深く研究を進めることができたという感想を語っている。

この科目は担当の教員が1名で、年度ごとに担当が変わるため、前年度の活動の内容を次年度に十分に生かし切れていない面がある。そこで、今後は研究の成果を次年度担当者に引き継いでいくことや、指導計画や指導目標を担当外とも共有し、この授業が1・2年時の探究活動の発展的なものになるようにしていくことが必要である。

普通科「グローバル」活動報告

指導担当 尾花尚史 大槻民久

1. 活動方針

- ・調べ学習とは違う探究活動の論理的思考を学ぶとともに、自らが自分の疑問を自らの活動で克服する喜びを体験させる。
- ・発表することで、自分の考えを人に伝えるスキルを習得するとともに、よりの確に考えを伝える力を育成する。

2. 探究活動の内容

- ・個人研究でテーマは自由とする。
- ・学校行事として研究内容の発表の機会をつくる。
- ・最終的に成果物として次年度に残す論文集を作成する。

3. まとめ(アンケート結果から)

取り組みについては、全員が意欲をもって取り組めたと回答しており、その中で積極的に取り組めた生徒が半数いた。また、この講座から学んだこととして、全員が論理的思考についての学びを実感しており、67%の生徒が論理的思考を学ぶことができたと回答した。最後に、受講生徒全員が受講して良かったと答えており、1年間の活動としての成果を上げることができた。



地域課題から世界を考える日 (1月27日(金))

ねらい

今年度の「総合的な探究の時間」における学習成果の発表の場を設定することにより、他者からの批評・助言による相互の省察の濃い会を設け、取り組みへの意義を深化させ、探究活動における学びの質的向上、並びに基礎学力向上をめざし協働して学ぶ生徒の主体的な態度を育成する基盤を協創する。

場所:2号館各教室および会議室

1・2階:1年1組,2年 3階:1年2~5組

時間:1~4限 8:35~12:25 (朝読・5・6限 無し)

第1部 8:35~10:50 全体発表 ※保護者にはインスタで第1部から配信

第2部(外部にも公開) 11:00~12:35

	テーマ設定	活動形態	発表内容・指導上の課題
1-1	興味・進路	個人	<p>発表内容 個人の興味関心からテーマを設定させているため、バリエーションに富んだ内容</p> <p>指導上の課題 各個人の進捗にばらつきが生じやすく、介入のタイミングや内容が判断しにくい</p>
1-2 ~5	市提供テーマ 公共交通 環境教育 健康管理 化石資源 生物多様性 高校改革 国際比較	班 教員割振	<p>発表内容 市から与えていただいた情報から課題を設定し問題点を見つけ出し、それについての自分なりの解決案をデータをもとに発表します。</p> <p>指導上の課題 自ら問題点を見つけ出し解決策を見つけ出すことを目指したが、時間の都合上、教員が提示したミッションに対するデータを調べた内容を発表します。 実態に則した評価観点として、提案の内容より「どれだけ考えたか」に重点をおいた評価を希望します。</p>
2-1	地域・興味	班 一部個人	<p>発表内容 地域課題を探究のテーマの柱として、生徒の興味・関心に従って具体的テーマの絞り込みを1学期に行った。2学期からは1学期に決定した課題研究のテーマに従って12班に分かれて探究活動を行った。今回はこれらの12のテーマに従って各班が発表する。</p> <p>指導上の課題 (1) 課題研究テーマの絞り込みを、1年次3学期にできれば2年次2学期末に課題研究の成果をまとめられる。 (2) 2年次2学期末にまとめる課題研究の成果物を具体的に示して、生徒達にゴールのイメージを持たせる。</p>
2-2 ~5	興味・進路	個人・班 (自由)	<p>発表内容 自分の興味関心に応じて、自分の将来したいことや進路について探究したことを発表する。また、内容に縛りを設けていないため、自由にテーマ設定している。</p> <p>指導上の課題 1学期末の中間発表から更に考察を深める作業を経て12月の発表を行った。多様なテーマの中で生徒たちの「したいこと」を尊重して指導をしたが、まだまだ深められるのではないと思う。「問い」の設定にもっと時間を使うべきであった。</p>
3-1 3-2 ~6	2年次から 継続 興味・進路	個人	<p>発表内容 知の探究コースと一般クラスより各1名の代表者による発表。探究活動の過程を通じた学びを語る。</p> <p>成果と課題 知の探究コースでは、2年次までに取り組んできた内容を英語で伝えることを目標に海外連携校との交流にも取り組み英語力を高めた。一般クラスでは、テーマ設定から成果物作成までの過程を経験させることができた。</p>

1 準備物 *Wi-Fi ルーター 2台(ZOOM用・インスタ用)

会議室:放送の配線(各クラスへの放送に利用)

PC3台(配信用ホスト,発表用,確認用),HDMI ケーブル1本,PJ1 台,ZOOM 配信セット,
ヘッドセット 2つ,ドラムロール(延長コード),トランシーバー

各教室:ZOOM に接続するために必要な端末 1 台(surface を配布)

発表資料データ(各班・個人で準備),

1・2階各教室:評価シート(生徒用・教師用)

3階各教室:評価シート(教師用),付箋・模造紙(各教室 2 枚)

選択 238:TVI 台(図書室より移動),iPad 接続コネクタ各1本

各担当一覧

第1学年		第2学年		第3学年	
廣内 健人	1-3	梶村 康人		土井 敬子	
松本 修子	2階	西本 秩抄	1階	芦田 悠	
一原 直之	1-2	田村 徹	2-2	高槻 かずみ	
坂本 秀史	選 238	大槻 民久	2-3	牛尾 太郎	
松藤 睦子	1-4	松本 弘輝	2-4	浅田 順子	
清水 幹郎	1-5	松山 典章	2-5	原 孝拓	
吉良 太誠	1-1	磯 太貴	3-2	河野 宙	
				尾花 尚史	
総務広報部		教務部		進路指導部	
辻野 彰一		和田 好史		瀬川 明宏	
白井 英文	記録	佐竹 靖史	配信	田中 浩	2-1
中塚 美幸	選 212	久保 哲成	会議室	佐藤 英朗	3-4
西村 一真	3-6	土元 優一	会議室	小林 俊彦	3-1
徳永 優子	放送	前田 まどか	講師対応		
生徒指導部		カリキュラム開発専門家		非常勤講師	
遠藤 郁男		鴻谷 佳彦	講師対応	高松 昭彦	1-1
太田 雅弘	3-5	一宮 祐輔	講師対応	大雲 祐子	放送
高野 祥	3-3			De Silva Varuna	選 238
大山 隆久	1-3			Trueblood Taylor	選 238
株本 晃子	救急対応				

ZOOM 2023年1月27日 08:00 AM~

<https://zoom.us/j/7530452863?pwd=ckLUHpaY2Q3TktZVWFNQiNKk0pQUtO9>

ミーティング ID: 753 *** ** ** * パスコード: **** *



2 時程表

前日までに	生徒:発表資料完成と投影するための設定 教員:担当教室(別紙)にて生徒資料を投影するための準備と確認	
1/27	内容	
8:20	自教室で着席 出席点呼	担任:出欠把握 第1部 Zoom 接続(会議室から配信) 各教室 ZOOM サインイン
8:35	開会挨拶 オープニングスライド 流れ説明	校長挨拶
8:40	移動および発表準備 1-2~5は一度発表教室へ移動	担当者:ZOOM 退室 発表準備補助
第1部 今年の探究で学んだことをプレゼンし、意見をもらおう		
8:45	各発表教室で、注意事項や内容の確認した後、再移動し、8:55~発表開始 1-2~5 20分で6回転 ・選 238 国際比較 ・1-1 環境教育・健康教育 ・1-2 生物多様性・高校改革 ・1-3 公共交通 ・1-4 化石資源 ・1-5 健康教育・化石資源	1-1,2年 2号館1階・2階 各教室 15分で8回転 1-1 37名 2-1 12班 2-2~5 45班 (各クラス11~12班×4クラス)
10:55	自教室へ移動・着席 第2部発表者は会議室へ	第2部 Zoom 接続 各教室 ZOOM サインイン
外部公開(会議室から配信)第2部 本校生徒が見つけた地域課題から世界を考える		
11:00	代表発表 代表者は会議室から配信、その他生徒は各 HR 教室で視聴 1年生:代表発表無し 2-1:10分×2班 2-2~5:10分×2班 3年生グローバル代表者:10分×2名	
12:00	講評 高畑由起夫 様 (関西学院大学フェロー)	司会者より講師紹介 探究活動の流れ・スキル・手法、自分の学びへの評価とさらなる高みを目指すために
12:20	次のアクション グーグルフォームで回収 →「テキストマイニング」で提示 閉会挨拶 諸連絡	* (各自の端末から入力)*QRコードを投影 地域で学んでいる自分たちのアクションを世界に広げていくために自分たちはこれからの高校生生活でどうしていきたいか。「あなたの次のアクションは?」 https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf6fjP4-PfOOuk7LBTyjEyRPrpeJ5ht1bN1PqyOrNGoTOvydA/viewform?usp=pp_url



3 第1部 発表教室と発表順番

(1)1年2~5組 2号館 3階 放送:徳永・大雲

3階	選238	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5
担当教員	坂本	高松・吉良	一原	大山・廣内	松藤	清水
班	国際比較	環境教育 健康管理	生物多様性, 高校改革	公共交通	化石資源	健康教育 化石資源
講師	バルナ	荻野誠 藤原	朴 高橋教頭	足立耕	朝永 足立沙	安達
8:55~ 9:15	[101] 国際1班	[111] 環境1班	[121] 杉岡 高校改革	[131] 公共1班	[141] 化石7班	[151] 健康4班
9:15~ 9:35	[102] 国際2班	[112] 環境2班	[122] 生物1班	[132] 公共2班	[142] 化石6班	[152]]健康5班
9:35~ 9:55	[103] 国際3班	[113] 環境3班	[123] 生物3班	[133] 公共3班	[143] 化石5班	[153] 健康6班
9:55~ 10:15	[104] 国際4班	[114] 健康1班	[124] 高畑 生物2班	[134] 公共4班	[144] 化石4班	[154] 杉岡 健康8班
10:15~ 10:35	[105] 国際5班	[115] 健康2班	[125] 生物4班	[135] 公共5班	[145] 高畑 化石2班	[155] 健康7班
10:35~ 10:55	[106] 国際6班	[116] 健康3班	[126] 生物5班	[136] 高畑 公共6班	[146] 化石3班	[156] 化石1班

関心のあるテーマの教室に移動して、発表を聴きメッセージカードをまとめて質問をする。

ただし、自分の発表の1つ前の発表時間には、必ず発表教室に待機しておくこと。

司会は講座担当教員(生徒から質問が出ないときに一番に質問をしていただく)

計時は、放送で一斉に流して連絡します。8分(1鈴)10分(2鈴)15分(3鈴)17分(4鈴)

発表8~10分、質疑応答・講師講評7~9分、入替3分です。※1人2分は発表する設定

発表者はスライド資料を画面上で共有しながら発表するので、担当教員はエアドロップで回収しておき、教室黒板に画面表示をしてください。

定刻1分前になりましたら下記の進行例に準じて進めてください。

「【担当教員自己紹介】」(2件目以降は不要)

「最初の発表者は、プレゼンテーション資料の準備をしてください。」

「研究発表開始後、8分で1鈴、10分で2鈴になりますので、発表終了のめやすとしてください。その後は生徒の質疑応答・講師の講評の時間になります。15分で3鈴、17分で4鈴になりますので、発表者の入替を3分で行ってください。」

【研究発表の紹介:発表番号、題目紹介】。

【発表終了2分前(8分経過時)に計時係が「残り時間2分です。」とアナウンスします】

【発表終了時刻(10分経過時)に計時係が「発表終了時刻です。」とアナウンスします】

「ご発表ありがとうございました。みなさんからご質問がある方は挙手してください。こちらから指名いたしますので、指名された方は、所属・名前をおっしゃっていただいてから、ご質問をしてください。」

「では、〇〇さん質問をどうぞ。」

「発表者の〇〇さん、ご回答をお願いします。」

【質問がない場合、続かなかった場合は講座担当か講師から質問】

【質疑応答終了時刻(17分経過時)に計時係が「質疑応答終了時刻になりました。」とアナウンスしますので、速やかに質疑応答を終了し、生徒にメモした付せんを教室後ろの模造紙に全員貼るよう指示してください】

(2) 1-1, 2年生 2号館1・2階

2階担当	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	221
松本修	小林	磯	高野	佐藤	太田	西村	施錠
8:45~9:00	1-1-1	1-1-2	1-1-3	1-1-4	1-1-5	1-1-6	開錠
9:00~9:15	1-1-7	1-1-8	1-1-9	1-1-10	1-1-11	1-1-12	
9:15~9:30	1-1-13	1-1-14	1-1-15	1-1-17	1-1-18	1-1-19	
9:30~9:45	2-1-1	2-1-2	2-1-3	2-1-4	2-1-5	1-1-20	
9:45~10:00	2-2-1	2-2-2	2-2-3	2-2-4	2-2-5	2-2-6	
10:00~10:15	2-3-1	2-3-2	2-3-3	2-3-4	2-3-5	2-3-6	
10:15~10:30	2-4-1	2-4-2	2-4-3	2-4-4	2-4-5	2-4-6	
10:30~10:45	2-4-13	2-5-2	2-5-3	2-5-4	2-5-5	2-5-6	
1階担当	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	212	211
西本	田中	田村	大槻	松本弘	松山	中塚	施錠
8:45~9:00	1-1-21	1-1-22	1-1-23	1-1-24	1-1-25	1-1-26	開錠
9:00~9:15	1-1-27	1-1-28	1-1-29	1-1-30	1-1-31	1-1-32	
9:15~9:30	1-1-33	1-1-34	1-1-36	1-1-37	1-1-38	1-1-39	
9:30~9:45	2-1-7	2-1-8	2-1-9	2-1-10	×	2-1-12	
9:45~10:00	2-2-7	×	2-2-9	2-2-10	2-2-11	2-2-12	
10:00~10:15	2-3-7	2-3-8	2-3-9	2-3-10	2-3-11	×	
10:15~10:30	2-4-7	2-4-8	2-4-9	2-4-10	2-4-11	2-4-12	
10:30~10:45	2-5-7	2-5-8	2-5-9	2-5-10	2-5-11	2-5-12	

※1 各教室の後方出入口は開けたままにしておく

※2 接続方法に注意

1年生:各自のiPadを利用してプロジェクタに接続・投影 アプリは端末にインストール済み

2年生:

1組 各班にsurfaceを配布(12台) surfaceを利用してプロジェクタに接続・投影

2組 各クラスにZOOM接続用に配布したsurfaceを利用。生徒系に保存されたデータを利用

※3 自分の発表の1つ前の発表時間には、必ず発表教室に待機しておく

直前発表がない場合、別教室に行っても良いが、自分の発表が開始時間通りに始められるようにしておく

テーマ一覧

1年1組

発表番号	テーマ
1-1-1	和菓子と皿の調和について
1-1-2	さまざまな地域が過疎化していく中でどうすれば改善できるか
1-1-3	コロナによる経済的ダメージからパンデミックへの対策
1-1-4	スポーツの本当の魅力を感じるために
1-1-5	テーマ未定 12月発表からの進展
1-1-6	サッカーにおけるホームとアウェーの勝率の違い
1-1-7	なぜ数学に未解決問題が存在するのか
1-1-8	個人差によって嫌いな食べ物があるはなぜか 周りに与える影響
1-1-9	児童虐待を減らすには
1-1-10	ポイ捨てをなくすには 心理面から考える周囲の影響
1-1-11	人間にとってペットの存在はどう在るべきか
1-1-12	トランペットのロボット演奏
1-1-13	若者の献血者数を増やす方法
1-1-14	ご飯を食べて幸せになる理由
1-1-15	ビックパンの前にあったもの 宇宙と光の関係
1-1-17	睡眠の満足感を高める方法
1-1-18	音の振動や変調と脳に与える影響の関係
1-1-19	みんなとなかよくなるには
1-1-20	南海トラフ地震に対する建造物の耐震性能
1-1-21	効率的でより良い「ユニバーサル LIVE」の構成
1-1-22	丹波市の農業の現状と改善策
1-1-23	お腹が鳴る仕組みと対処法
1-1-24	商品が開発される過程
1-1-25	どうすれば犬猫の殺処分を減らせるのか
1-1-26	検証!!マークシートで不安になる数字について
1-1-27	筆跡と人間性
1-1-28	忘れ物をなくすためには
1-1-29	勉強で一番集中できる方法何か
1-1-30	多様化する製品
1-1-31	学校でのタブレットを活用した授業
1-1-32	睡眠の質は時間と環境にどの程度左右されるのか
1-1-33	スマートフォンが人に与える影響について
1-1-34	今と昔の自殺理由の考察
1-1-36	集会での座り方を考える
1-1-37	人が犯行に至るまでの心理
1-1-38	ips細胞の実用化に向けて～私たちができること～
1-1-39	商店街をデザインしよう

1年2～5組

班名	班	テーマ
国際比較	1	国際的に見るジェンダー
	2	世界各国の校則に触れよう!! !! *
	3	日本と海外のマナーの違いについて
	4	コミュニケーションの 取り方の違い
	5	日本と海外の食文化の違いとその解決法。
	6	日本人の考え方と国際的な考え方のギャップを埋めるには
環境	1	プラスチック製品削減に当たっての問題点
	2	プラスチックごみ削減で丹波を守ろう
	3	ラジオでプラスチックごみの情報を広めよう
健康管理	1	目指せ!朝食率 100%!!!!
	2	朝の時間を効率良く使うために
	3	朝ごはん食べなくていいのか!! 学校でお腹鳴って下さい
	4	朝食を食べて集中力を上げよう
	5	自分に合う朝ご飯を見つけよう!
	6	高校生の朝食率向上作戦
	7	朝時間がない人へ、話がある。
	8	朝食の摂取を習慣づけるための具体的な対策と内容
生物多様性	1	目に見えないもの
	2	The 分水界 分水界の謎を解明せよ!!
	3	知らないと時代遅れ? 水分れのあれこれ!
	4	僕らは分水界
	5	生物と水を守っている分水界
高校改革	1	～柏原高校生が考える柏校改革～
公共交通	1	JR を利用する人を増やすために具体的に何ができるか
	2	公共交通改革
	3	黒字路線加古川線
	4	公共交通の活用方法!
	5	加古川線存続大計画!
	6	丹波へ恐竜探しの冒険に出かけよう!
化石資源	1	とあるちーたんの館Ⅱ
	2	広めよう!化石の魅力!!
	3	恐竜の化石と丹波市民
	4	恐竜
	5	恐竜への興味・関心
	6	よみがえる!丹波竜!
	7	化石資源 7班

2年1組

発表番号	テーマ
2-1-1	丹波市の大腸がんについて
2-1-2	少子化における特別支援教育～要特別支援児童・生徒の増加について～
2-1-3	児童福祉法改正に伴う児童養護施設の変化
2-1-4	数学で考える感染症の未来 with インフルエンザ
2-1-5	日本のインクルーシブ教育の形
2-1-6	パートナーシップ制度を丹波市に導入しよう
2-1-7	シャープペンシルを長く大切に活かすために
2-1-8	学校給食を活用した有機農業の推進
2-1-9	在日外国人の生活の向上
2-1-10	地表面流の調査による森林の健康状態の診断
2-1-11	人間と生物に配慮した環境づくり
2-1-12	地域の未来に貢献できる人が育つ科目+

2年2～5組

発表番号	テーマ
2-2-1	日本と世界の災害
2-2-2	求める味でわかる体からの SOS
2-2-3	医療問題～アフリカ医療向上に何が活かせるのか～
2-2-4	フリーWi-Fi の危険性
2-2-5	少子高齢化と医療
2-2-6	統計データを通して考えるゲーム業界の今後の課題
2-2-7	丹波と神戸の医療体制の違い
2-2-8	フィンランドとブータンを比較して
2-2-9	高齢化に伴う今後の医療
2-2-10	野生動物と農業(対策について)
2-2-11	”交通事故”と”鉄道人身事故”と”自然災害”の医療体制について
2-2-12	建築による地震の対策
2-3-1	世界の幸福度から考える日本
2-3-2	ホームページ作成 ～生徒目線からの柏原高校ホームページ～
2-3-3	丹波の工場と科学技術の社会への貢献
2-3-4	子育ての現実と課題 ～日本の子育ての課題～
2-3-5	コロナウイルスによる医療と経済の変化とその後
2-3-6	国際間における今求められている数学について考える
2-3-7	子どもたちが外で遊ぶためには何が必要か
2-3-8	0からゲーム開発 ～脱出ゲーム作成～
2-3-9	イルカ×医療 ～ドルフィンセラピー～
2-3-10	チーム医療について ～丹波市のチーム医療～
2-3-11	地域を企業や組織から見る ～山南・柏原・氷上・沖繩編～
2-4-1	いじめの概念～自分たちの考えるいじめと小学生の考えるいじめの違いを知り、そのケアの仕方を考える～
2-4-2	性格と教育の関係性について～人見知りをなくすために～
2-4-3	英語圏の訛りや方言～私たちが学んでいる英語と海外で話されている英語を比較して～
2-4-4	KAPPAEBISEN 現象～思春期の更生と再犯心理について～
2-4-5	私たちがストレスとうまく関わっていくには～睡眠～
2-4-6	漫画から紐解く社会現象

2-4-7	世界各国の人口問題と法・政策の関係
2-4-8	演技の種類の違い～舞台芸術とその他の俳優業界の発展～
2-4-9	色や形がどう心に影響するか 沖縄 ver
2-4-10	スポーツ革命～運動不足と健康との相関関係～
2-4-11	SDGs～詐欺 ダメ 頑張っ て なくす～
2-4-12	沖縄の観光業への依存から学ぶこと
2-4-13	置物から見た世界
2-5-1	メディアの移り変わり
2-5-2	ゲームで地域活性化
2-5-3	楽天とAMASONの違い
2-5-4	沖縄の医療について
2-5-5	社会と心理学
2-5-6	看護について笑顔と看護観
2-5-7	看護学生の日
2-5-8	自衛隊と平和
2-5-9	子供と高齢者 ～音楽との関わり～
2-5-10	食べ物からみる美容 ～おいしく楽しく美しく～
2-5-11	来年のアート・クラフトフェスティバルに向けて
2-5-12	プロ野球独立リーグ参加による地域活性化の可能性

3年グローバル選択者

	テーマ
1	偏見を無くすには～LGBTQ から考えられること～
2	高校生が創る丹波の未来への架け橋プロジェクト
3	Cross-Cultural-Understanding
4	長崎さるく的まちあるきの実践～学校での共通体験を通じた在丹外国人との信頼関係の構築のために～
5	医療、生活から見るその国の価値観、幸福度
6	VOCALOID
7	Eスポーツの普及
8	持続可能な丹波市～SDGsから考える～
9	Liminal space はどのように経験されるか～不気味さと懐かしさの共有点～
10	年代別コード進行と社会情勢の移り変わり～音楽と社会の繋がり～
11	義足をつけるスポーツ選手のパフォーマンス向上のために
12	絶滅危惧種を守り個体数を増やすために～SDGs15 陸の豊かさを守ろうと兵庫の野生動植物から考える～
13	障がい者の方に対する避難時の共助
14	保育の環境を良くするために
15	女性議員
16	パワハラについて

1年生 一般クラス

企画書(プレゼンテーション・スライド資料)	
タイトル	乗客を増やすためのアイデア
地域の課題	丹波市は人口減少が続き、高齢化が進んでいます。また、公共交通機関の利用者が減っています。
課題が解決した所	この企画書の発表はOです。これによって乗客が増え、地域が活性化します。
自分たちのアイデア	1. 地域住民、観光客にもっとバスを走らせたい。2. バス停の数を増やしたい。3. バス料金を安くしたい。
アイデアの説明・実現方法	1. バス停の数を増やすために、バス停の位置を再考する。2. バス料金を安くするために、乗客を増やすための施策を講ずる。
アイデアによる地域の効果	乗客が増えることで、地域の活性化が期待できます。
結論	本日はご清聴ありがとうございました。

丹波へ恐竜探しの冒険に出かけよう!

ミッション 公共交通(JR)の利用者数を増やすには?

ミッションを解決するために

加古川線を使ってちーたんの館へ
恐竜探しの冒険に行こう!



加古川線(西脇市駅~谷川駅)

17.3キロ

区間内の停車駅(5駅)

西脇市駅、新西脇駅、北庭駅、

日本へそ公団駅、黒田庄駅、

本黒田駅、総持口駅、谷川駅、

谷川駅



そもそもなぜ利用客数が減ったのか?

予想①

最初から需要が高くなかった

年	1987年	1997年	2007年	2017年	2018年	2019年	2020年
乗客数(人)	1131	595	443	344	289	269	261
乗客数(人)	1131	595	443	344	289	269	261
乗客数(人)	1131	595	443	344	289	269	261

1990年は瀬池屋敷が廃線になった年

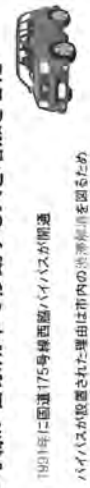
つまり

元々この地域、西脇市の電車の需要が高くなかった

半分以上減少

予想②

175号線が自家用車で移動する人を増加させた



1991年に国道175号線西脇バイパスが開通

バイパスが設置された理由は市内の渋滞解消を図るため

電車よりも車での移動がスムーズになった

予想③

通勤者・通学者の使用率が減った



内閣府の国勢調査(通勤・通学人口)より

2015年 688人

2020年 697人

↑

西脇~丹波川橋本駅

2017年 319人

2020年 215人

↓

482人

西脇市に行く人は増加したが、電車の運輸密度は減少した

利用客数を増やすには?

いきなり通学、通勤者を増やすのは難しい



みんなが乗らないから、乗らない。存在を知らない。
乗る人が少ないと料金が高い。

地域への効果は?

加古川線の廃線を阻止できる。引き続き通学・通勤者が使用できる

丹波市の魅力に触れる人が増える



移住する人が増えるかも

さらに丹波市の別の観光地へ

まずはキッカケが大事

加古川線は丹波市がちーたんや丹波竜を
活用することで生まれかわる

方法① 福井県の『きょうりゆう電車』を参考にしよう



営業キロ

27.8km

区間内の停車駅(4駅)

福井駅・福井口駅・永平寺口駅
・勝山駅

概要

- 2014年運行開始
- 休日、長期休みのみ運行
- 二回編成の電車
- 車内に恐竜のモニュメント

加古川線では

- 1 丹波竜クイズのポスターを車内に掲示する
- 2 休日または長期休暇の時に恐竜の化石を車内に設置する
- 3 アナウンスで丹波紹介



探検している気分であーたんの館へ！

方法② SNSを利用して加古川線とちーたんの館を発信する



ターゲットは？

ファミリー層(20代～40代)

使用するSNSは？



利用頻度が高いのは

YouTube

投稿しやすい利用頻度が高いのは

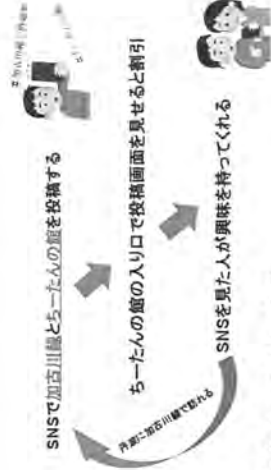
Twitter

Instagram

なぜ、ファミリー層(20代～40代)を狙うのか？

- ① SNSの利用頻度が高い
- ② 若者は車を持っている人が多く公共交通を利用する人が少ないためこの層に利用してもらえれば利益に期待できるから

日本中の人に丹波と加古川線を知ってもらおうキッカケになる！



方法③ ちーたんの館への道案内看板・看板を作る



案内
Indoor Sign

屋外看板
駅名標(加古川線)の付加価値として、駅名自動表示機



案内
Outdoor Sign

インターネットで調べると

27%

向かしの行動をした人

70%以上

気になる看板を作ればみんなが調べる

案内看板

久下月駅からちーたんの館(850m)の間に案内してくれるものがない

どのような看板がいいか？

冒険気分そのままで行けるようにシール・エポキシ樹脂や足跡を歩道に描くなど

ワクワク感を残す



Twitterのメリットとデメリット

メリット

① 最新の情報などをリアルタイムで

② 拡散性が高い

デメリット

文字制限がある

① #などで共通のワードを認識できる

② 他のSNSと連携しやすい

デメリット

写真や動画を悪用されるかも



フィンランドとポーランドを比較して

1. フィンランドの紹介
2. ポーランドの紹介
3. フィンランドとポーランドの幸福度について
4. 自分たちがより幸せに暮らしていくには

フィンランドの紹介

場所：北ヨーロッパ スカンディナヴィア半島の内側
 ノルウェー
 スウェーデン
 ロシア



フィンランドの紹介

気候：冷帯温帯気候
 夏は暖かい 冬は厳しい寒さ



ポーランドの紹介

場所：南アジア
 インド 中国 ネパール ミャンマー
 気候：熱帯
 四季
 雨季 乾季



フィンランドの幸福度について

2022年 1位（5年連続）

- ・美しい景色と自然→落ちる
- ・ゆったりとしたライフスタイル
- ・生活水準の高さ
- ・教育システムの充実
- ・社会保障制度の充実



フィンランドの社会保障

18歳未満 医療費無料
 小学生～大学生 学費無料
 出産時に育児パッケージ



ポーランドの幸福度について

2013年 8位
 GDP(国内総生産) ⇨ GNH(国内総幸福量)
 4つの柱：公正な社会経済発展、環境の保全、3つの領域（暮らしやすさ、健康、教育）の充実、文化・芸術、民間の活力、美しい風景
 世界一幸せな国
 「雨風をしのげる家があり、食べるものがあり、愛されている」
 2019年 95位 / 156

ポーランドの幸福度について

2019年 95位 / 156
 情報源国 ⇨ 携帯電話、コンピューター、インターネット
 =他国と比較できる
 「1日3食食べられて、寝るところがあって、着るものがある
 という安心感」
 「雨風をしのげる家があり、食べるものがあり、家族がいる幸せ」

自分たちがより幸せに暮らしていくには

現状：日本 「多くの物事に囲まれた生活が豊か」
 「それなりに幸せだけど、もっと上がある」

必要

- ・他人と比較しない
- ・毎日の生活を当たり前だと思わない
- ・知りすぎない




3年生グローバル選択者(知の探究コース)

'KAKEHASHI PROJECT'

- In English, it's the "Bridge Project"
- It means that high school students create Tamba's future like building a "bridge"


Project's purpose

- Enliven Tamba
- Make a place where high school students can play an active part.



Explanation of project

- Cooperate with three high schools in Tamba
- High school students do all things for our "the project" (ex. preparing project plans, having a meeting, asking for cooperation, collecting money)
- Run a project with local people



Project of last year

As had to know the "Tamba's World Needs" for the greatest number of people during a 10-15 days at the summit.




Good points for moving a project forward last year

- More connections with local people were made
- A team of unity was born
- We could learn difficult points and ways for collecting money and donations
- We could learn useful rules by working a project with local people
- We enjoyed having a project coordinator with a sense of responsibility

Difficult points for moving a project forward last year

- Collecting money
- Getting participants
- Gap of motivation in project members
- Finding an project plan
- Making balance between school life and projects



Project of this year

- We had the "Lantern Festival" to cooperate with another group of three on December 18th
- Our booth have a lantern, stage, and kitchen etc.



Many lanterns on the ceiling



High school students played in bands



Children are making lanterns



We had many people make lanterns




Good points for moving a project forward this year

- We could continue our project in 2 years
- We could run our project ourselves
- Connections between people could be made in this event (ex. among 3 high school students, among other towns' citizens, among students' local people who helped our project)

Difficult points for moving a project forward this year

- The gap of motivation in project members
- Collecting money
- Making foundation and spreading for 2 years
- Collecting project members



Points which made use of experiences of last year this project

- How to lead a meeting/members can express their ideas
- Challenged to do ourselves to continue after this year
- Dividing groups to solve some problems (ex. overnight, public relations, lantern, stage)

Impacts which the "Bridge Project" gave to Tamba

- "Bridge Project" was featured in the media
- Increased local people to cooperate and cheer
- Some young people have had interest in the "Bridge Project"



Local newspapers



What project members got through project

- Expressing their ideas in the meeting
- Discussing some problems ourselves
- Adjusting schedules with local people
- Acting responsibly
- Ability to take actions
- Enjoying project!

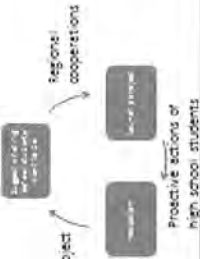


The future of the "Bridge Project"

Continuation project

Regional cooperations

Proactive actions of high school students



3年生グローバル選択者(一般クラス)

LGBTQから考える差別意識

LGBT=セクシュアルマイノリティ

性別平等意識

- G=ゲイ (男性同性愛者)
- B=バイセクシュアル (同性愛者)
- T=トランスジェンダー (性別同一障害など)
- Q=クエスチョニング (性自認や性的指向が決まっていない人)



ジェンダーレス制服への改定

多様な世の中受け入れる

賛成多数

しかし、「男性がスカートはおかしい」「そこまでする必要があるのか」

反対意見


私が考える「仮説」

偏見を無くすには時代の流れが重要なのではないかと

経済差別撤廃
新しい法から取り除く

昔はあつた言葉
現在は使われない

小学校の頃からLGBTQについて
字べは偏見が薄れるのでは



行った調査

01 ジェンダーレス制服導入アンケート

02 小学段階に設けたLGBTQに関する授業

「男らしさ女らしさではなく、自分らしさ」

選択肢を増やせる
多様な性を受け入れられる環境作り

アンケート項目

- Q1:ジェンダーレス制服を服用しているか
- Q2:なぜ変えたのか
- Q3:なぜ変えない?変えられない?



Q1 服用しているか

Q2 なぜ変えた?

自分の意見・気分で
制服を変えられる



はい: 15 (16%)
どちらでも: 20 (20%)
いいえ: 65 (68%)

価値観: 5 (5%)
好み: ファッション: 90 (90%)
その他: 5 (5%)

4つの性


好むになる性
心の性
表現の性
体の性

Q3なぜ変えない?変えられない?

口調偏見で悩んでいる
口舌の争いの懸念が好みだから

口周りの目が気になる
口周りにおかしいと言われるから
口周りに合わせてこのままでいい

日本が硬い
#sexgender.jp




小学校教諭に聞いたLGBTQの道徳授業

ここ3年(生徒も先生も)

高学年
低学年

人形
4つの性理解

異性交友



年齢層で感じる偏見

扱っていてしまった価値観

LGBTQの知識が低い
異性交友

これが当たり前の世の中だった



差別意識を無くす壁

これが当たり前の世の中

若年層
幼少期からLGBTQ教育

中高年層
多様性を認識させる

結論と展望

まずは知識を、そして多様性を理解

パートナーシップ制度
同性婚
公共機関の整備 etc.

参考

・LGBTQの知識が低い世代は「LGBTQの知識が低い世代」
・LGBTQの知識が高い世代は「LGBTQの知識が高い世代」



柏原高校が指定校に

文科省「普通科
改革支援事業」

特色ある学びに向け

「知の探究」改編

文科省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業」の指定校となった柏原高校＝柏原町東奥で



柏原高校が、特色ある多様な能力や適性、興味や関心などに応じた学びの実現に向けた文科省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定校となった。全国で19校、県内では御影高校との2校が指定された。県教育委員会は、柏原高校における2024年度の新学科設置（予定）に向け、「知の探究コース」の改編を進めていくとしている。

文科省は、「高校生の度末に公布された学校教育法施行規則等の一部を改正する省令などにより、従来の普通教育に特色や魅力を加えた「学際領域に関する学科」や「地域社会に関する学科」などの新学科を設置可能とした。

柏原高校は、同事業におけるスローガンを「地域力を活用した、多様な価値観を共有する人材を育成する教育課程の開発」と掲げ、知の探究コースの改編に取り組み方向性や内容として、▽文理融合型の課題探究を軸とした教育課程または、地域の教育資源を活用して地域課題の解決に取り組む学びを軸とした教育課程を編成する▽地域の行政機関や事業者、地域活性化に向けた取り組みを展開している団体などの連携協力体制を整え、その連絡調整を行う「コーディネーター」を配置することなどを挙げている。また、「探究」の科目を深化させるため、現在の3単位から7

単位を増やすことなどを検討している。同校の大垣喜代和校長は、「わが校のミッションは、地域を支える人材と全国、世界で活躍するリーダーの育成。それを実現するためには、主体的に物事に挑戦し、多様な価値観を理解して協働できる、また、地域課題解決に寄与する生徒を育てることが大切」とした。

文科省は、今年度から設置が可能となる「これら新学科の設置に向けた検討などを行ったための高校を指定し、支援することにした。」

（太治庄三）

市が探究テーマ提案

協働で地域課題解決へ

柏原高校1年の2〜5組の生徒を対象に15日、同校で「地域協働学習」の授業があった。地域課題解決への取り組みの最前線にいる丹波市職員が課題の提供と講義を行った。生徒たちは、5人の市職員から、▽公共交通▽ごみ問題▽健康▽化石資源▽生物多様性の5つのテーマから2つを選択。現状と課題を聞き、来年1月までにまとめる自身の探究テーマを探った。（太治庄三）

佐藤補佐館長のフィールドミュージアムから生物多様性の豊かさについて講義を受ける生徒たち＝柏原町東奥で



交通・ごみなど5つ

身近な社会の課題とそとの解決に取り組む大人の視点を知り、市民の一員として何ができるかを考え、気付きを共有する探究授業。

市教育委員会社会教育・文化財課の教育普及専門員で、水上回廊水分解フィールドミュージアム館長補佐の朴侑希さん

は、生物多様性をテーマとし、高いた山を越える苦労をしながらも日本海側と瀬戸内海側のどちらにも余田温君（市島中出身）は、「丹波の自然に興味があった受講した。

好きな分野とはいえ、課題を見つけたら、難しいが、頑張りたしや文化を育んだ。動植物もこのルートを使って分布を広げ、水上回廊一帯は生物多様性の宝庫となった」と解説した。

しかし、スケールが大き過ぎることもあって、「概念として分かりにくい中央分水界、水分解。視覚的、感覚的に分かりやすく、多くの人々に知ってもらえる方法はないか」と施設としての課題を生徒に伝え、「目には見えない生物多様性。どこに、どのような生物がどれだけのいるのかも把握できていない。市民と一緒に調査、保全する方を中心に、南北に標高差法や、丹波市の豊かな生物多様性を広くPRする方法も考えてほしい」と呼び掛けた。

余田温君（市島中出身）は、「丹波の自然に興味があった受講した。

ランタン醸す幻想の世界



丹波市の高校生有志が、今年も「ランタン祭り」を開催し、幻想的な世界を演出した。参加者は、手作りのランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。ランタンには、地域の風景や、学生たちの思いが込められていた。

丹波市の高校生有志が、今年も「ランタン祭り」を開催し、幻想的な世界を演出した。参加者は、手作りのランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。ランタンには、地域の風景や、学生たちの思いが込められていた。



18日、丹波市の高校生有志が、ランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。

高校生企画 ランタンの夜

「地域の絆強めたい」
昨年キッズ選抜、新たに音楽

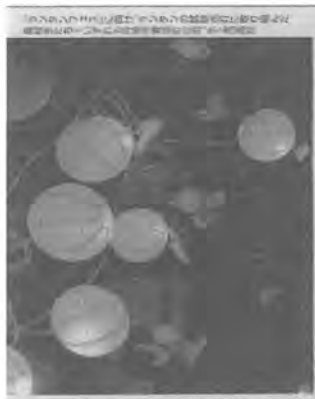
丹波市の高校生有志が、今年も「ランタン祭り」を開催し、幻想的な世界を演出した。参加者は、手作りのランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。ランタンには、地域の風景や、学生たちの思いが込められていた。

「地域の絆強めたい」
昨年キッズ選抜、新たに音楽

丹波市の高校生有志が、今年も「ランタン祭り」を開催し、幻想的な世界を演出した。参加者は、手作りのランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。ランタンには、地域の風景や、学生たちの思いが込められていた。

「地域の絆強めたい」
昨年キッズ選抜、新たに音楽

丹波市の高校生有志が、今年も「ランタン祭り」を開催し、幻想的な世界を演出した。参加者は、手作りのランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。ランタンには、地域の風景や、学生たちの思いが込められていた。



18日、丹波市の高校生有志が、ランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。

「地域の絆強めたい」
昨年キッズ選抜、新たに音楽

丹波市の高校生有志が、今年も「ランタン祭り」を開催し、幻想的な世界を演出した。参加者は、手作りのランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。ランタンには、地域の風景や、学生たちの思いが込められていた。

「地域の絆強めたい」
昨年キッズ選抜、新たに音楽

丹波市の高校生有志が、今年も「ランタン祭り」を開催し、幻想的な世界を演出した。参加者は、手作りのランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。ランタンには、地域の風景や、学生たちの思いが込められていた。

温かな光が紡ぐ地域の絆



18日、丹波市の高校生有志が、ランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。

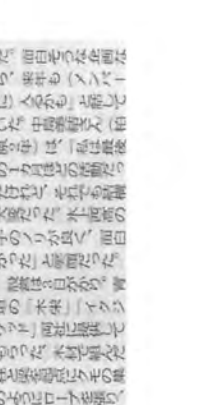
「地域の絆強めたい」
昨年キッズ選抜、新たに音楽

丹波市の高校生有志が、今年も「ランタン祭り」を開催し、幻想的な世界を演出した。参加者は、手作りのランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。ランタンには、地域の風景や、学生たちの思いが込められていた。

凍てつく夜に温かな光

「ランタンフェス」成功
高校生が企画し、地域の絆を深めた

丹波市の高校生有志が、今年も「ランタン祭り」を開催し、幻想的な世界を演出した。参加者は、手作りのランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。ランタンには、地域の風景や、学生たちの思いが込められていた。

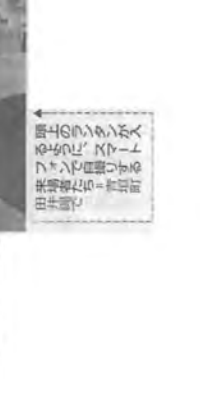


18日、丹波市の高校生有志が、ランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。

凍てつく夜に温かな光

「ランタンフェス」成功
高校生が企画し、地域の絆を深めた

丹波市の高校生有志が、今年も「ランタン祭り」を開催し、幻想的な世界を演出した。参加者は、手作りのランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。ランタンには、地域の風景や、学生たちの思いが込められていた。



18日、丹波市の高校生有志が、ランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。

楽しい明かりに癒やされた

「ランタンフェス」成功
高校生が企画し、地域の絆を深めた

丹波市の高校生有志が、今年も「ランタン祭り」を開催し、幻想的な世界を演出した。参加者は、手作りのランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。ランタンには、地域の風景や、学生たちの思いが込められていた。



18日、丹波市の高校生有志が、ランタンを飾りつけ、夜の街を歩いた。

なぜ大腸がんが少ない？

柏原高 課題探究の成果発表

柏原高校で20日、探究校内発表会があった。1、2年生(計391人)と3年生の「グローカル」選択者(16人)が、自ら課題を見つけ、その解決に向けて探究した経緯や結果をタブレットでデータを示しながら発表した。少子化における特別支援教育の在り方や、ワクチン接種率と感染率の関係性、在日外国人の生活向上、エテシナルマイノリティーの課題など、生徒たちの多岐にわたる新鮮な視点、柔軟な発想がうかがえ、探究する上での苦労も垣間見える発表となった。1年生は個人で、2年生はグループで取り組んだ。(太治庄)



自らテーマを設定し探究してきたことを発表する2年生のグループ。柏原町東奥で

2年生の久米健斗君、野菜類摂取量、運動・喫平出歩君、藤吉大君の「煙・飲酒習慣」を調査グループは、「丹波市にしたら」と、「食事と運動習慣が大きい関係していることが分かった。」をテーマに発表した。丹波市が県内で大腸がん患者が最も少ないこと、近隣市の中で最も大腸がん患者が多い伊勢市とを比べ、▽大腸がんの予防に生かすことを狙った。

調査方法は、行政への聞き取りや、論文などからデータを抽出。「大腸がんは肥満関連がんのため、生活習慣が大きく影響している」と考えた。丹波市が0.17%(20万2千人)で大腸がん患者が最も少ない長岡市と、一番少ない沖繩県を比較すると、このことから、「肥満者数はわずかな差であり、肥満率、食塩、

野菜類摂取量、運動・喫煙・飲酒習慣などを調査したところ、「食事と運動習慣が大きい関係していることが分かった。」をテーマに発表した。丹波市が県内で大腸がん患者が最も少ないこと、近隣市の中で最も大腸がん患者が多い伊勢市とを比べ、▽大腸がんの予防に生かすことを狙った。

調査方法は、行政への聞き取りや、論文などからデータを抽出。「大腸がんは肥満関連がんのため、生活習慣が大きく影響している」と考えた。丹波市が0.17%(20万2千人)で大腸がん患者が最も少ない長岡市と、一番少ない沖繩県を比較すると、このことから、「肥満者数はわずかな差であり、肥満率、食塩、

り、運動習慣がある人は伊丹の方が多く、長崎と沖繩との比較から導き出した関連性は丹波市には当てはまらなかった。丹波市には運動習慣以外に大腸がん患者が少ない要因がある」とし、「今回、要因を見つけていることができなかったが、今後、視点を変えて要因を探りたい」と締めくくった。

発表に耳を傾けていた生徒や教員は、「丹波市の医療体制が影響しているのでは」「空気や土水など、まだまだいろんな要素を調べることができるとは」「など感想を伝えていた。

「地域課題から世界考える」 柏原高校 LGBTQ問題など探究



「丹波の課題は世界の課題」と捉え、地球規模の視野で考えて課題を設定し、地域視点で行動して解決策を提案する「地域課題から世界を考える日」がこのほど柏原高校であり、生徒が約100本の研究成果を発表した。一部は外部に向けてオンライン配信された。

2年生の片山暁人君と山本愛莉さんの組は、「パートナーシップ制度を丹波市に導入しよう」をテーマに、日本のLGBTQ問題に関する同性婚について探究、発表した。

同性婚を合法化している国はオランダ、スペイン、台湾などがあるが、日本では認められていないことや、国内で同制度を導入している自治体は、昨年10月時点で約240あることを紹介。三重県は高校生からの要望を受けて導入した経緯があり、「同じように丹波市に制度を提言すれば実現の可能性はあるのではないかと考えた。」

日本における性的マイノリティーの割合は全人口の3.3〜10%程度で、「少なくとも30人に1人が性的マイノリティー」と報告した上で、ジェンダーレスについての賛成派や、同性婚を合法化することに賛成する人も多く、パートナーシップ制度を「知っている」「言葉は知っている」割合が全体の3分の2を占めていたことを報告した。

「身近にいない、会ったことがない、ではなく、気付いていないだけ」と訴えた。一方で、市が実施した「人権に関する市民意識調査」では、「同性婚などの権利を制度化することに関しては消極的な人が多いことが分かった」とした。

2人はLGBTQに関する市民アンケートを実施。回答した220人の、回答者の過半数となる123人が19歳以下と年代に偏りがあることを報告した上で、ジェンダーレスについての賛成派や、同性婚を合法化することに賛成する人も多く、パートナーシップ制度を「知っている」「言葉は知っている」割合が全体の3分の2を占めていたことを報告した。

外部配信のため、カメラの前で探究成果を披露する生徒たち。柏原町東奥で

丹波から TAMBA へ・自己理解と他者理解の螺旋

地域力を活用した、「多様な価値観を共有する人材」を育成する教育課程の開発

新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)

2022年度(令和4年度)活動報告集

発行日 令和5年3月31日
発行者 兵庫県立柏原高等学校
〒669-3302 兵庫県丹波市柏原町東奥50
TEL 0795-72-1166 FAX 0795-72-1168



学校 HP



「くりゅう」

(マスコットキャラクター)

